




南桜風

鹿児島大学工学部同窓会会報



第21号



令和6年3月10日発行

鹿児島大学工学部教育研究支援基金事業 報告及び鹿大「進取の精神」支援基金学 部等支援基金について……………1	教員の異動……………15
ごあいさつ	部会だより
同窓会会長 宮城泰児……………2	機友会……………16
工学部長 木方十根……………3	錦水会……………19
OBより 丹羽大樹……………4	AOI会……………24
	南窓舎密会……………30
	しらなみ会……………34
各プログラムの状況	工学部稲盛学生賞・学部長賞 他 ……39
機械工学プログラム……………5	進路状況……………43
電気電子工学プログラム……………5	工学部同窓会役員・ 部会各支部役員名簿……………46
海洋土木工学プログラム……………6	本部だより……………48
化学工学プログラム……………7	工学部同窓会諸活動支援報告……………56
化学生命工学プログラム……………8	工学部同窓会学生諸活動助成報告 ……60
情報・生体工学プログラム……………9	会則……………65
建築学プログラム……………10	編集後記……………67
在学生から	同窓会名簿第17号について……………68
在学生 河野竜也……………11	
在学生 中村太紀……………12	
在学生 村上幸太郎……………13	
留学生 JACKSON KONG ZHE SHENG ……14	

会報「南桜風」の郵送が不要の方へのお知らせ

会報は会員の方で住所が判明しているすべての方へ無償で配布しておりますが、皆様のご希望により“郵送は不要”とお申し出された方には次号より郵送を中止とさせていただきます。下記の書式にてFAX・メールでお知らせください。*メール・FAXでの連絡内容

会報の郵送不要：氏名・住所・卒年・学科

メールアドレスのお知らせ

*E-mail：メールアドレス：kadai.eng.dousoukai@gmail.com

電話 / FAX：099 (285) 3494

なお、メール・FAXで送れない方は電話にてお知らせください。(FAX番号と同様)

ただし今回メール・FAX・電話にて連絡された方であっても、数年後に郵送の再開を希望される場合はご連絡いただきますと送付いたします。

なお、郵送不要と連絡済みの方にも郵送された場合は、お許しいただきますとともに改めてお知らせいただければ幸いです。

住所変更の連絡のお願い

現住所が変更になられた際は同窓会にもご連絡ください。同窓会のHP「異動の連絡」あるいは電話・FAXにてお知らせください。同窓会より名簿発行などのお知らせをいたします。

鹿児島大学工学部教育研究支援基金事業報告及び 鹿大「進取の精神」支援基金学部等支援基金について

○鹿児島大学工学部教育研究支援基金規則に基づく助成（2022年度）

工学部創立50周年記念事業期成会及び工学部創立75周年記念事業にて受け入れた寄附金を原資として、鹿児島大学工学部教育研究支援基金が設置され、「(1)研究成果の学術雑誌での発表に係わる助成事業、(2)大学院学生の海外での国際学会発表派遣助成事業、(3)その他工学部基金の目的達成に必要な事業」について助成を行っております。2022年度については、2020年から世界的な流行となった新型コロナウイルス感染症の影響により、国内外の学会がリモート開催等となったことで、助成はありませんでした。

なお、2018年度は31件3,560,000円（うち、工学部補填1,060,000円）、2019年度は26件2,540,000円（うち、工学部補填40,000円）の助成を行いました。

○鹿大「進取の精神」支援基金学部等支援基金について

鹿児島大学工学部教育研究支援基金の更なる充実を図るために、2023年1月から鹿大「進取の精神」支援基金学部等支援基金へ移行いたしました。工学分野における次世代を担う高度な専門職業人の育成及び我が国の世界的競争力の基盤となる研究力の強化を目指す所存ですので、同窓生の皆さまの格別のご支援を賜りたいと存じます。

なお、工学部のみならず、プログラム（以前の学科を表します）を指定した寄附が可能となりますので、何卒、ご寄附を賜りますようお願い申し上げます。

基金の使途

対象事業	内 容
研究成果の学術雑誌での発表に係わる助成事業	若手教員を対象に、研究成果の学術雑誌での発表を推進するための支援を行う。
大学院学生の海外での国際学会発表派遣助成事業	大学院学生を対象に、海外で開催される国際学会での発表を推進するための支援を行う。
その他本基金の目的達成に必要な事業	その他、工学分野の教育及び研究の振興に資する支援を行う。
※上記のほか、鹿大「進取の精神」支援基金の管理運営を円滑に行うことを目的として、本基金に対する寄附金の一部を鹿大基金の全学共通経費として使用させていただきます。	

寄附手続きの方法は、鹿児島大学ホームページをご確認くださいませよう、お願い申し上げます。



任期の最終年に当たり

工学部同窓会会長（建築 58）
宮城 泰児

2021年4月より、この役を拝命し3年が経過しようとしております。鹿児島大学工学部同窓会、ひいては鹿児島大学同窓会連合会のお役に立てるようにと微力ながらお手伝いをして参りました。2020年4月頃よりコロナ禍となり、2021年4月24日には鹿児島大学工学部創立75周年記念式典は記念講演会がWeb開催、2021、2022年の鹿児島大学工学部同窓会や鹿児島大学同窓会連合会の総会、懇親会が共に中止になり、会合は殆どE-mailにて協議運営されました。コロナ禍以前、以後において世の中の仕組み、在り方も随分と変化し、以前には後戻りできない功罪が様々な場面で出ております。

また、現在同窓会幹事の方々がご苦勞されているのは、入学生の同窓会の会費納入に関する事案であります。個人情報保護法等の観点から鹿児島大学からの入学生へのアナログの案内封書が廃止、デジタルのE-mail通知へと転換し、入学生保護者への同窓会入会手続きの理解が、きちんと伝達できていない状況です。終身会費である同窓会費が納入されないことは、同窓会の運営に致命的な影響を与えるととともに、会員の意思疎通、連携が形骸化しかねない状況です。何とか鹿児島大学にもご理解を頂戴し、健全な同窓会運営を実施させて頂きたいと考えており、このことは工学部同窓会に留まらず、鹿児島大学同窓会連合会も同様であります。

最近読んだ本の中に、世界の情勢、日本の歴史の動きの中で、政治や経済が大きな変化を見せるときは、必ずといって「疫病」、「災害」の発生した後に大きな動きがあると出ておりました。「明治維新、太平洋戦争はしかりである」と書いてあります。このコロナの疫病の後に、またゾロ世界が大きなうねりを呈しているように思われます。国際状況として、「もうすでに第三次世界大戦化」という学者もおります。過去の状況を清算しないままに今日に至り、侵略、迫害等に至る状況には、この世界に生きるものとして果たして同じ空気を吸っているのかと慄然たる思いです。歴史は繰り返されるのか、人類の英知を集められるのか、はたまた日本国も同様な戦乱に巻き込まれる日が早晚やってくるのか？未来に目を向けるとやはり無関心でいてはならないと強く感じます。また、2024年冒頭より能登半島地震が発生して多数の死傷者を出し、いま尚多数の方が避難生活を余儀なくされております。亡くなられた方々には哀悼の意を捧げるとともに、災害に遭われた方々には一日も早い復興を祈念致したいと存じます。地震国日本においては常在遭遇することも想定されており、災害への備えについては日々叫ばれておりますが、今回の災害を目の当たりにすると言葉もありません。小生も北陸に旅したことがあり、真冬の北陸は南国の者には想像を絶する天候、地形があり、またその相反する素晴らしい景観と食があります。日本国民として被災者の方々に寄り添いたいと考える次第です。

大学を卒業して約40年間、いまさらながら鹿児島大学工学部とのご縁があることをうれしく思い後輩諸氏の活躍を頼もしく拝見する次第です。以前にも述べましたが若人の方々には、自分に期待し過信し挑戦する心を持ち続けてほしいです。3年間、力不足で至らないことばかりでしたが、お支え頂いた事務局の窪田様、福原先生、吉留先生、鷹野先生、監査の方々、そして機友会、錦水会、南窓舎密会、しらなみ会、AOI会の役員の方々には大変お世話になりました。この場を借りて御礼を申し上げるとともに、鹿児島大学工学部、工学部同窓会の今後益々の隆盛、弥栄を祈念申し上げます。

デジタル技術の活用や脱炭素の流れは、工学のみならず、すべての産業や労働環境を大きく変えるような世界的潮流となっています。一方、日本では大学で理工系を専攻する学生がOECD平均より低いうえに、各国が理工系学部の学生数を増やしているなか、日本はほとんど変わっていないという状況にあります。

こうした状況を受けて、我が国政府は、これらの成長分野を支える理系人材の育成を強化するための施策を打ち出しています。鹿児島大学工学部でも、上記のような社会情勢とともに、鹿児島の地域の実状を踏まえた対応が求められています。

そこで工学系も主体を構成する鹿児島大学理工学研究科では今年度、オール鹿児島で地域ニーズに対応できる幅広い高度情報専門人材を養成し、高度情報人材教育の地域循環を目指す、組織的な取り組みに着手しました。具体的な内容については、目下中央政府との折衝中の事項を含むため、改めてご報告させていただきますが、その取り組みの狙いは、数理・情報科学や、情報工学、生体工学といった既存の主な情報関連分野を母体としつつ、工学のあらゆる分野における、情報科学や情報技術を駆使した取り組みを結集し、理系・文系を含む鹿児島大学の他学部とも連携しながら、情報科学の基礎と応用力を備える幅広い高度情報専門人材を輩出することです。またこうした狙いを実現するために、連携企業および地域の自治体や高等教育機関との連携による地域の情報教育・人材強化の拠点の整備を計画しています。

なお工学部では、令和2年度の改組において数理・データサイエンス教育を幅広く導入し、大学院改組と連動して、学士・修士一貫教育による優れた人材の育成に着手しました。また令和4年度には、文部科学省の数理・データサイエンス・AI教育の特定分野校に採択され、この分野の教材開発と地域への普及活動に取り組んできました。このような、これまでの取り組みを基礎として、次の時代への工学の展開を図って参りたいと思います。卒業生の皆様には、今後とも益々のご支援をお願い致します。

最後になりましたが、卒業生の皆様のご健康とご多幸、工学部同窓会の益々のご発展をお祈り申し上げます。



（工学部における情報科学） 次 の 時 代 へ の 工 学 の 展 開 を 目 指 し て

工学部長

木
方
十
根



ものづくりの礎

丹羽 大樹

鹿兒島大学 理工学研究科 建築学
株式会社 竹中工務店
国際支店 マレーシア竹中 代表
2001年修了

同窓会の皆様におかれましては、様々な分野でご活躍されていることと拝察いたします。私は、工学部建築学科を卒業後、理工学研究科建築学を専攻し、2001年に修了しました。在学中は、塩屋晋一先生にきめ細やかなご指導を頂きましたこと、本会報誌面をお借りして心より御礼申し上げます。

卒業後は株式会社竹中工務店に入社し、施工管理やプロダクト設計、技術部にて大小様々な業務に従事しました。その後、海外の建設事業への興味から社内公募制度に手を挙げ、2009年から現在まで海外での建設事業に携わっています。日本国内のほか、アメリカ、タイ、インドネシア、マレーシアの駐在国で失敗と成功の経験を繰り返し、実務を通じて感じたことをご紹介させていただきたいと思います。

国内では、施工管理担当として社会人生活が始まりました。言うまでもなく実際の現場では右も左もわかりません。建物の事業計画から竣工お引渡しまでは、お客様の要望を完全に反映した設計図やそれを具現化するための施工計画など、非常に多くの工程と膨大な数の人が携わり、その集大成として最後に職人の方々の手で形にされることを身をもって体験しました。

幾度となく経験した失敗を通じて、仕事の仕組みとノウハウを学びましたが、お客様の思いをかたちにするためには、どんな場面においても異なる職種や立場を超えて合意形成を図る必要があります。その過程の中心には他でもない「人」が存在し、適時適切に判断してきました。便利ではありましたが当時の最新のソフトウェアも合意形成を図るための一つのツールでしかなく、現代のBIMやAIに置き換わっても人が中心という根底は変わらないと思っています。

それは海外でも同じことで、特にものづくりにおいて、相手の思いを尊重し具現化する能力は、日本人の得意とする領域であることを実感しています。在学中における先生方からの手厚いご指導、仲間との交流、鹿兒島のまち（温泉と吹上庵の峠なべうどんが大好きでした）で育まれた私たち鹿兒島大学の卒業生は、人一倍その能力に長けているはずだと自負しながら業務に励んでいます。

一方で、適切な自己主張とスピード感のある対応も大切です。世界における意思決定のスピードは益々加速しており、限られた時間で最適解を導くためには、業務と自己研鑽にもとづく知識と経験の積み重ねに勝るものはないと思っています。かくいう私もまだまだ修行中で、日々反省を繰り返し、次につなげる努力は怠りません。

信念に基づき自身のありたい姿を実現する方法は人それぞれですが、時間は瞬く間に過ぎていきます。最後に、私がそれぞれの駐在国で同じ目標（ありたい姿）に向かい進むチームに伝えてきたメッセージを送らせていただくと共に、後輩の皆様方へのご参考となれば幸いです。

Explore your expertise（個の専門能力を磨く）

Proactively collaborate as a Team（組織で積極的に協業する）

Fun your work & Fun your life（仕事も人生も楽しむ）

末筆ではありますが、同窓会の皆様の方へのご健勝とご発展を心よりお祈り申し上げます。

機械工学プログラム

プログラム長 片野田 洋

先進工学科機械工学プログラムと大学院工学専攻機械工学プログラムの近況について、ご報告いたします。先進工学科機械工学プログラムの学生の在籍数は、令和5年10月1日現在で、学部1年生107名、2年生92名、3年生97名（内編入生4名）、4年生96名の合計392名（内留学生6名、女子学生20名）です。今年度末に、先進工学科機械工学プログラムの第一期生が卒業を迎えます。大学院工学専攻機械工学プログラムの学生の在籍数は、博士前期課程が104名、博士後期課程が1名となっています。

現在の教員数は18名（教授8名、准教授7名、助教3名）です。コース別では、生産工学コースが6名、エネルギー工学コースが6名、機械システムコースが6名となっています。

教員の学内活動としては、上谷俊平教授が理工学研究科地域コトづくりセンター長および工学部長補佐として活躍されています。また、地域コトづくりセンターは熊澤典良准教授が教育部門長、片野田が研究部門長を務めています。研究活動としては、片野田が設立した地域コトづくりセンター所管の鹿児島ハイブリッドロケット研究会が、肝付町と共催で今年度末に小型ハイブリッドロケット5号機を打上げ予定です。また、「第13回おた研究・開発フェア」で片野田が小型ハイブリッドロケット開発の紹介を行いました。競争的研究資金の獲得状況は、科学研究費補助金の新規採用が計3件、その他（奨学寄附金、受託研究費・受託事業費、共同研究費）が計22件（4月～10月）でした。海外渡航を伴う国際会議での発表等は10件（4月～11月）でした。県内での新聞報道・テレビ報道が計18件（1月～10月）ありました。

学生の動向として、就職状況は好景気に支えられて100%の就職率を達成できる見込みです。また、講義は本年4月から一部を除いて対面形式となりました。学生の学習環境はコロナ禍前に戻りつつありますが、教員はオンラインの講義ツールも活用しながら、より効果的な講義方法を模索しています。

最後になりますが、機械工学プログラムの今後の発展のためには、同窓会会員の皆様のお力添えが不可欠です。今後ご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

電気電子工学プログラム

プログラム長 青野 祐美

令和2年度の改組も完成年度となり、学部は先進工学科電気電子工学プログラム初の卒業生を迎える年度となりました。本プログラムには、令和5年10月1日現在、学部生321名、

博士前期課程学生93名が在籍しており、勉学や研究に励んでおります。

教員では、令和5年3月に寺田教男教授が定年退職を迎えられ、吉田賢史助教が龍谷大学へ栄転され、現在、教授7名、准教授8名、助教4名の合計19名で教育・研究に日々取り組んでおります。

今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響も小さくなり、ここ数年は現地に赴くことが難しかった「フレッシュマン・セミナー」での発電所見学や「工場見学」などが従来の形に戻りつつあり、学生に良い刺激となったようです。10月21日には、錦水会鹿児島支部総会・懇親会が行われ、学部3年生、修士1年生向けの講演会「きぼっど会」も対面形式で行われました。

九州では現在、半導体関連企業の誘致が続き、盛り上がっております。本学も九州半導体人材育成等コンソーシアムに参画しており、当プログラム独自の取り組みとして、近隣の半導体企業にお勤めの卒業生にご協力いただき、学部生向けの半導体プロセスの講義を企画しました。大学院生も参加し、多くの学生が先輩の言葉に熱心に聞き入っていました。

また、本プログラムは旧学科時代の平成17年度にJABEE（日本技術者教育認定機構）の認定を受け、9月末に3度目の継続審査を受けました。八野教授を長とするJABEEワーキンググループの主導のもと、無事、良好な成績で審査を終えることができました。審査に当たっては卒業生の方々にも様々なご協力をいただきました。ここに、深く感謝申し上げます。これからも社会に貢献できる人材の輩出に向けて教職員一丸となって努力してまいりますので、同窓会の皆様には今度ともご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。

海洋土木工学プログラム

プログラム長 安達 貴浩

海洋土木工学プログラムは、昭和48年に海洋土木開発工学科として、教育研究組織が設置され、今年度は、ちょうど開設50年に相当します。海洋土木工学プログラムの1年を振り返り、まずご報告すべきことは、海洋物理学など多くの講義をご担当され、多数の人材を育成された山城徹教授が令和5年3月末日をもってご退職されたことが挙げられます。山城先生は、現在、理工学研究科に設置された寄付講座「街・海・宇宙からみるプラスチックごみ監視システム研究講座」の特任教授として、引き続き、海洋物理学の専門性を活かした研究に勤しんでおられます。ちなみに、同寄付講座の責任者は、海洋土木工学プログラムの加古真一郎教授が務め、国立研究開発法人・海洋研究開発機構（JAMSTEC）とも連携し、海洋プラスチックごみの可視化システムを社会実装することを目的とした研究が実施されています。

令和5年4月には、地盤工学分野の伊藤真一助教が立命館大学に、コンクリート工学分

野の小池賢太郎助教が、国立研究開発法人・海上・港湾・航空研究所へと異動いたしました。また、令和5年4月には、加古真一郎先生が教授に昇任されました。加古先生は、上述したように寄付講座の責任者として、ご専門である海洋物理学や数理・データサイエンス分野での実績を活かし、ご活躍されており、今後、教授として、教育や運営面でも大いにリーダーシップを発揮されるものと期待されています。

また、令和5年度の秋の受勲において、海洋土木工学プログラムの前身である、海洋土木工学科の教員を務めていらっしゃった佐藤道郎名誉教授、ならびに松本進名誉教授が、瑞宝中受章を受章されました。教員の退職、異動により、現在、10名の常勤教員という、過去最低数の教員で教育・研究を切り盛りしている状況ですが、このような名誉教授2名の受勲を誇りに思い、海洋土木工学技術者に対する社会からの大きな要請を自覚しているところです。これからも海洋土木工学プログラム一同、教育と研究に精励し、有為な技術者と有用な研究成果を世の中に発信していく所存ですので、同窓会の方々には、今後ともご協力・ご支援をよろしくお願い申し上げます。

化学工学プログラム (旧 環境化学プロセス工学科) プログラム長 吉田 昌弘

化学工学プログラムでは、学部学生35名（入学定員）を専任教員8名（教授4名、准教授2名、助教2名）で小人数教育を行っております。また、助教の先生も博士前期課程の指導教員の資格取得できることに伴い、令和2年度からこれまでの研究室制度（小講座制）を見直し、令和3年度から8研究室体制（大講座制）となっております。但し、各教員は話し合いにより研究グループを組み、配属された学生の教育研究を実施しております。

また、教員の動向としては、これまで化学工学の教育研究に貢献された以下の2名の教員が辞職されました。令和5年3月31日をもって、下之蘭太郎助教が辞職されました。さらに、令和5年10月31日をもって、中里 勉准教授が辞職されました。昇任ならびに新任教員の動向としては、令和5年4月1日に電子デバイスの新しい冷却システムである積層ベーパーチャンバーの社会実装が高く評価され水田 敬助教が准教授に昇任されました。また、令和5年4月1日に高瀬 隼助教（専門分野：分離材料設計）が、大阪大学で博士後期課程を修了し、学位取得後に採用されました。

研究室構成

吉田昌弘（教授）研究室、二井 晋（教授）研究室、武井孝行（教授）研究室、田巻 孝敬（教授）研究室、鮫島宗一郎（准教授）研究室、水田 敬（准教授）研究室、五島 崇（助教）研究室、高瀬 隼（助教）研究室

本プログラムは、教育の成果を判断するためには、学生自身が資格試験を受け取得できる教育システムを新たに導入しております。そこで、公益社団法人 化学工学会が行っている資格制度である「化学工学技士（基礎）」の資格を取得できるような教育プログラムを導入致しました。学部3年生以上には当該資格試験の受験を必修としており、合格できない場合は卒業までに当該資格取得を目指しております。受験学生全員が本資格を取得し、卒業できることを目標に教員一同頑張っております。

小人数学科であるために学生に対して丁寧な指導ができますが、教員の研究に費やす時間は厳しい状況にあります。その限られた時間の中でも数多くの国内外の学会発表、学術雑誌への発表、外部資金の獲得に務めております。アフターコロナ後、院生の学外発表も増える中、優秀プレゼンテーション賞や優秀ポスター賞も数多く受賞しております。

化学工学を学んだ学生に対する企業の求人倍率は、約5倍を維持しており、好景気や不況の波に影響することなく多い状況です。これも卒業生の皆様が各企業であげられた実績によるものであると感謝しております。南九州の地域産業や全国の企業とも連携した研究を介して、今後も化学産業の発展のため貢献していきたいと思っております。日本の将来を担う若者を十分に教育して社会に送り出していきますので、卒業生の皆様にはこれまで同様にご支援を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

化学生命工学プログラム

プログラム長 門川 淳一

令和2年に工学部が改組され、化学生命工学科が先進工学科化学生命工学プログラムになって4年目を迎えました。改組に伴いカリキュラム等の変更はありましたが、教育・研究方針は従来と同様に「化学」をキーワードとしており、有機化学、物理化学、分析化学、環境化学、バイオテクノロジー、材料化学などを専門とする教員によって運営されています。現在の教員構成は、教授4名（石川、門川、橋本、松本）、准教授5名（上田、金子、高梨、中島、吉留）、助教5名（新地、橋口、満塩、若尾、戸谷）の14名です。また学生の定員は、学部50名・大学院26名で、従来から変更はありません。令和5年10月1日付で、戸谷匡康先生が助教として着任されました。戸谷先生は高分子化学がご専門で、特に高分子の精密合成を基盤とした新しい生体材料などの開発に取り組んでおり、当プログラムにおいて機能高分子化学の研究分野でのご活躍が期待されております。また、名誉教授の隅田泰生先生は、引き続き糖鎖ナノテクノロジー共同研究講座で精力的に研究を続けられておられます。

本プログラムの教員・学生は、コロナ禍においても活発に研究活動を行い積極的に国内外の学会や学術雑誌に成果を発表してきました。特に、令和5年5月から新型コロナウイルスの感染症の位置付けが5類に変更されたことに伴い対面での学会開催が復活したこと

で、益々、活発に学会発表を行っております。それに伴い、大学院生が複数の学会でポスター賞を受賞しています。また、教員も国際学会で招待講演を行うなど、研究成果の積極的な対外発信を継続しています。

本プログラムは大学院生のグローバル人材育成にも積極的に関わってきました。その一環として、米国ノースダコタ州立大学とのジョイントシンポジウム（8th KU-NDSU Joint Symposium on Biotechnology, Nanomaterials, and Polymers）を11月に本学で開催しました。また、12月に台湾国立成功大学へ22名の大学院生を派遣し、国際ワークショップ（Taiwan-Japan Bilateral Workshop）および関連の交流行事に参加しました。今後も継続して活動を行っていく予定です。

卒業生の皆様には、ますますのご活躍を祈念いたしますとともに、本プログラムへの変わらぬご指導ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

情報・生体工学プログラム

プログラム長 松元 隆博

令和2年4月の工学部改組により、情報生体システム工学科は情報・生体工学プログラムになり、それから4年目を迎え、学部1年生から4年生までプログラム所属の学生が揃いました。本プログラムは、学部学生の入学定員（目安）が80名、博士前期課程学生の入学定員（目安）が44名で工学部の中では規模の大きいプログラムです。令和5年11月1日時点での学部学生の在学者数は、学部1年生96名、2年生102名、3年生92名、4年生80名の計370名で、博士前期学生の在学者数は、修士1年生43名、2年生48名の計91名で、本プログラムでは多くの学生に対して教育、研究を行っています。

それに対して、教員数は、改組前の平成27年度が24名であったのに対して、現在10名減の14名で教育、研究、管理運営を行っている厳しい状況が続いています。現在のプログラム教員組織は、教授6名（王鋼、大橋勝文、小野智司、重井徳貴、松元隆博、吉田秀樹）、准教授7名（岡村純也、鹿嶋雅之、加藤龍蔵、西村方孝、福元伸也、山下和香代、吉本稔）、助教1名（大平康旦）の14名で構成されています。今年度（令和5年4月1日以降）に2名の教員を迎えることができ、熊本大学医学部より西村方孝准教授が、山口大学情報基盤センタより大平康旦助教が着任されました。さらに次年度（令和6年4月1日以降）に5名（准教授2名、助教3名）を採用する計画で動いており、19名になる予定となっています。教員の学内活動としては、重井徳貴教授が先進工学科長（学部長補佐）として活躍されています。また、令和5年度の春の受勲において、情報・生体工学プログラムの前身である、情報工学科の教員を務めておられた村島定行名誉教授が、瑞宝中綬章を受章されました。

研究に関しては、対外的にも多くの賞を獲得しており、随時、学科・専攻のホームペー

ジ (<http://www.ibe.kagoshima-u.ac.jp/>) のお知らせに掲載されていますのでご覧いただければ幸いです。また、学生の就職状況はおかげさまで好調で、就職率ほぼ100%が達成されており、エレクトロニクス産業や情報産業、また医用電子機器メーカーなどの生体関連産業といった分野だけにとどまらず、官公庁を含む幅広い分野に就職しています。

同窓会の皆様には、例年学生への支援事業である「新入生ウェルカムパーティ」や「きばっど会」等で多大なご支援を頂いており、心から感謝申し上げます。これからも社会に貢献できる人材の輩出に向けて教職員一丸となって努力してまいりますので、同窓会の皆様には今度ともご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。

建築学プログラム

プログラム長 二宮 秀興

今年度の建築学科は、教授5名、准教授6名、助教3名の計14名の教員構成で運営してまいりました。2023年3月に鱒坂徹教授がご退職され、後任として4月から柴田晃宏先生が教授に昇任されました。また柴田先生の後任として細海拓也先生が准教授として着任されました。細海先生は国内で建築設計事務所を主宰されるとともに、海外の著名な設計事務所でも設計活動を展開されてきた新進気鋭の建築家です。また10月には構造系の倉富洋先生が准教授として福岡大学から着任されました。倉富先生は鉄骨構造、鉄筋コンクリート構造、木構造を複合的に幅広く研究をされています。教員の分野構成としては、意匠・計画分野が7人、構造分野が4人、環境分野が3人となっています。人事面では木方十根教授が令和5年4月から工学部長として、学部運営の舵取りを精力的に担われています。他の教員もそれぞれ、教育、研究、管理運営、社会活動に真摯に取り組んでいます。今年度はJABEEの継続審査を控えており、それに向けて自己点検書等の準備を進めているところです。

同窓会関係では、今年度は塩屋先生の発案で関東同窓会を大々的に開催しました。同窓会は11月4日に三州倶楽部で開催しましたが、120名以上の参加者を得て大盛況でした。荻野関東支部長のもと、北辰斜めを全員で歌ったことが心に残りました。今後も同窓会活動が活性化するように教員とOBの繋がりを深めてゆきたいと考えております。

引き続き、次の未来に向けて、建築学科の全教員で議論し、学科の更なる発展と学生の育成に努めて参ります。卒業生の皆様には、今後も変わらぬご支援をよろしくお願いいたします。



在學生から

「価値ある大学生活」

先進工学科

化学生命工学プログラム4年

河野 竜也

私の大学生活は、コロナ禍の中から始まりました。はじめ、リモート授業のせいで、一日中家にいることが多く、バイト先と自宅の往復ばかりの退屈な生活が続きました。そんな中で私の祖母は、「若いうちの苦勞は買ってでもした方が人生楽しい、大学生活が楽しくないのは、家に閉じこもっているからだ」と語ってくれました。私は、それを信じて家以外にも、様々な誘いに積極的に参加するようにしました。知り合いのサークルの手伝いやインターンへの参加、友人との旅行に飲みの誘いなど様々なものに参加することで価値ある体験をすることができ、私に数えきれない程の経験を得ることができました。

様々な経験を得たことで、私は自身の将来の理想像を更に鮮明にすることができました。大学での学びは、私の夢でもあった研究職についてより近づける事に繋がり、ネイティブの先生に頼んで参加させてもらった英会話教室では、日本と海外の価値観、常識、教育の違いを知ることができ、将来私が何者になりたいかをより現実的に思い描くことができました。中でも、大学4年での研究室での日々は最も有意義なものでした。自身の研究テーマについて深い理解をすることでその価値を知り、それについて理論を立て議論をする。実験は常に上手くいくとは限らず、失敗の原因について得られたデータと実験時の観察からヒントを得て、理論と現実の乖離を修正していく日々でした。しかし、苦勞に苦勞を重ね一歩ずつ成長していくのを日々感じるのは、どんなに疲れていても自分を奮い立たせ、諦めることを忘れさせてくれました。

来春からは大学院へ進学し、さらに専門性を身に着けたいと思います。この4年間で培った知識や経験を活躍させる機会が増えていくことでしょう。家で退屈していた大学一年の頃想像していた以上に、今、私は自分の理想像をより鮮明に思い描くことができ、それが実現可能なものへとなっています。買ってでもした苦勞は、常に私に充実を与えてくれました。

最後に、大学生活を共に過ごした友人やお世話になった先生方、支えてくれた家族に感謝申し上げます。



在学生から

「好奇心」

鹿児島大学大学院 理工学研究科

博士前期課程2年 工学専攻

情報・生体工学プログラム

中村 太紀

私は情報分野を専門として6年間学んできました。中学生の時にコンピュータに触れてから、その面白さに魅了され、より知識を深めたいという思いから情報系の学科に進学しました。時は夢のように過ぎ、実りのある学生生活だったと思います。

大学2年生の頃までは漠然と課題をこなしてきましたが、ある出会いによって画像処理に魅了されていきました。それは「工場見学」という授業の自由散策の時間のことでした。友人らと「PIXAR のひみつ展」に行くと、そこでは技術と芸術の融合が展示されていました。今まで習った微分積分、指数対数、ならびにプログラミングまでも利用して映画が作り上げられているというものでした。ああ、今まで習ってきたのはこうやって応用されているのだと感激しました。魅了されました。あの時の友人らと高揚感に包まれた時間は忘れられません。それからというもの、特に画像処理に没頭し、授業で習う内容は画像処理に利用できないか、何か面白いことはできないか、そういった知的好奇心からくる衝動から画像処理を専門とした研究室に配属しました。

好奇心に勝るものはない。そう思える日々でした。研究は「木を植えた男」のように果てしない目標を達成しようとするものです。壁におつかると、手法が間違っているのではないか、そもそもこの研究に意味があるのか、ただのエゴイズムに満ちた研究ではないか。そんな泣き言しか出てこなくなる時でさえも好奇心によって突き進むことができました。それは先生が「興味のある研究テーマにしなさい、興味があれば頑張れる」という方針の賜物だと思います。興味のある研究が出来て幸せな時間でした。このような学びの機会を与えてくださった先生方、研究室の皆様に感謝を申し上げます。



在学生から

回想

鹿児島大学大学院 理工学研究科
総合理工学専攻博士後期課程3年
村上 幸太郎

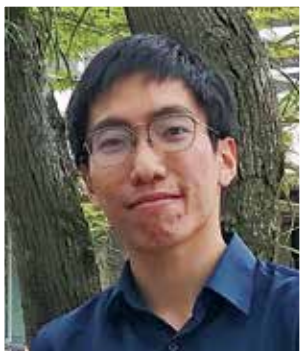
大学入学から鹿児島に住み始めはや10年目、研究室配属されてから始まった研究活動もあれよあれよという間に、7年目になりました。また、人生の三分の一以上を鹿児島の地で過ごしていることに我ながら驚きです。

高校生の時、たまたまいろいろな研究所を見学させてもらう機会があり、その際に見た研究者の方々がとても楽しそうに話している姿を見て、なんとなく研究者になりたいという夢を持ち鹿児島大学に進学してきました。学部生時は、学業だけでなく部活やアルバイトを行い充実した生活を過ごすことができたと思えます。そんな中でも研究者になりたいという気持ちは消えておらず、迷うことなく大学院進学を決めました。研究室に配属されてからは研究に追われ忙しい日々でしたが、研究中心の生活をする事が出来ました。加えて、研究テーマが企業との共同研究が多く企業の方と関わる機会や、国際会議に参加させていただくなど、様々な貴重な経験をさせていただきました。

そんな充実した研究生活を送らせてもらっている中で、博士課程に進学する際はとても悩みなかなか決断することが出来ませんでした。特に周りに進学している人がおらず情報がないことや、金銭問題で悩んでいたことを覚えています。そんな中で、研究者になりたいという気持ちが強くなっていたこととそれまで取り組んでいた研究テーマについてより深く行いたいと思い進学を決めました。

まだまだ未熟ですが、無事学位をとり研究者として活動を始めることが出来た際は、これまで得た経験や知識を社会に還元し、また自分を同じように研究者になりたいと思われるような研究者を目標に精進していきます。

また、最後になりましたが、これまで様々な機会を与えてくださった駒崎先生、理工学研究科の先生方、研究室の皆様に感謝申し上げます。



留学生から

「好奇心の冒険： 留学への一歩」

先進工学科
海洋土木工学プログラム4年
JACKSON KONG ZHE SHENG

日本での生活が、あっという間に、5年目を迎えました。この5年間の旅を振り返ると、冒険と学びの詰まったものでした。本稿では、この旅で私が感じたことについて話したいと思います。

日本に来たばかりの時、「なぜ留学先に日本を選んだのか」とよく聞かれました。来日の理由を思い返すと、アニメがそのきっかけでした。アニメを通じて日本の文化と出会い、異文化の奥深さに魅了されました。当初は日本語の理解が難しく、言葉の違いに戸惑うこともありましたが、時間が経つにつれて、日本語から言い表せない親しみや温かさが感じられました。そこで、アニメに描かれている日本の文化やステレオタイプが本当かどうか、自分の目で確かめたいという強い願望が湧きました。

来日してからの最初の3年間は、鹿児島高専で寮生活を体験しました。初めての寮生活に加え、言葉の壁に直面することは想像以上でした。そのため、日本での生活に慣れるまでに時間がかかりましたが、留学生であるからこそ、「日本語分かりません」という冗談的な表現を使いながら、周囲の人に助けをもらい、何とか言語の壁を乗り越えました。この期間中、寮での暮らしは規律正しい生活習慣を身につけるきっかけとなりました。積極的に先生に質問したことで、学業的にも追いつけるようになりました。また、マレーシア留学生として、様々な交流会を通じて心強い「お母さん」との出会いがあり、日本の文化に深く浸ることができました。

高専を卒業した後、鹿児島大学工学部先進工学科海洋土木工学プログラムに編入しました。海洋と陸上の両方の土木工学を学びたいと考えたからです。編入当初は、高専の経験があれば、順調に卒業できるのではないかと考えていましたが、大学と高専では教育制度が異なるため、私の考えが甘かったことを思い知りました。大学生活で一番印象に残っているのは、「積極的に質問するよりも、あらかじめ自分で考えた方が良い」と言われたことです。この言葉を聞いた時は、留学の旅に迷ってしまいました。しかし、これが現実社会ではないのでしょうか。必ず誰かに助けられるわけではありません。自分で何とかしないといけない時期はきっと来るでしょう。そこから努力を重ね、安易に質問をするのではなく、自分の力で物事を理解できるまでしっかりと考えるという新たな能力を身に付けることができたのではないかと思います。

このように、留学という旅は決して簡単なことではありません。しかし、新しいことを学び、新しい人と出会うことができるのは、この旅の真髄であると感じています。言葉の壁などの障壁に直面する中で、この旅を通して得た教訓は、自らの思考と行動がどれほど重要かを教えてくれました。この努力と柔軟性が求められる留學生活こそが、成長と学びの貴重な機会となりました。ですから、鹿児島大学工学部の学生の皆さんには、新たな挑戦に立ち向かうことを強くお勧めします。少しでも海外に対する好奇心があるなら、留学は素晴らしい選択肢となるでしょう。そして、留学だけでなく、海外の文化に興味を持っていたら、ぜひ海外旅行もしてみてください。

教員の異動

(令和5年1月1日～令和5年12月31日)

<採用>

(建築学プログラム)	細海 拓也	准教授	令和 5年 4月 1日付	細海拓也一級建築士事務所
(化学工学プログラム)	高瀬 隼	助教	令和 5年 4月 1日付	大阪大学大学院
(情報・生体工学プログラム)	大平 康旦	助教	令和 5年 4月 1日付	
(大学院理工学研究科 (街・海・宇宙からみるプラスチック ゴミ監視システム研究講座))	山城 徹	特任教授	令和 5年 4月 1日付	海洋土木工学プログラム
(大学院理工学研究科 (数理・データサイエンス・AI教育))	佐多 恵悟	特任助教	令和 5年 4月 1日付	クロスアポイントメント (株式会社リコー)
(情報・生体工学プログラム)	西村 方孝	准教授	令和 5年 7月 1日付	熊本大学
(電気電子工学プログラム)	寺田 教男	特任教授	令和 5年 9月 1日付	電気電子工学プログラム
(建築学プログラム)	倉富 洋	准教授	令和 5年10月 1日付	福岡大学
(化学生命工学プログラム)	戸谷 匡康	助教	令和 5年10月 1日付	九州大学
(海洋土木工学プログラム)	LIU TIANRAN	特任助教	令和 5年10月 1日付	九州大学

<昇任>

(海洋土木工学プログラム)	加古 真一郎	教授	令和 5年 4月 1日付	海洋土木工学プログラム (准教授)
(建築学プログラム)	柴田 晃宏	教授	令和 5年 4月 1日付	建築学プログラム (准教授)
(情報・生体工学プログラム)	福元 伸也	准教授	令和 5年 4月 1日付	情報・生体工学プログラム (助教)
(化学工学プログラム)	水田 敬	准教授	令和 5年 4月 1日付	化学工学プログラム (助教)
(機械工学プログラム)	大高 武士	准教授	令和 5年 4月 1日付	機械工学プログラム (助教)

<転出・辞職>

(化学工学プログラム)	下之蘭 太郎	助教	令和 5年 3月31日付	
(電気電子工学プログラム)	吉田 賢史	助教	令和 5年 3月31日付	龍谷大学
(海洋土木工学プログラム)	小池 賢太郎	助教	令和 5年 3月31日付	港湾空港技術研究所
(海洋土木工学プログラム)	伊藤 真一	助教	令和 5年 3月31日付	立命館大学
(大学院理工学研究科 (CRS共同研究講座))	近藤 英二	特任教授	令和 5年 3月31日付	
(化学工学プログラム)	中里 勉	准教授		

<定年退職>

(電気電子工学プログラム)	寺田 教男	教授	令和 5年 3月31日付	平成11年10月 1日～令和 5年 3月31日
(海洋土木工学プログラム)	山城 徹	教授	令和 5年 3月31日付	昭和57年 4月 1日～令和 5年 3月31日
(建築学プログラム)	鱈坂 徹	教授	令和 5年 3月31日付	平成25年 4月 1日～令和 5年 3月31日
(機械工学プログラム)	中村 祐三	准教授	令和 5年 3月31日付	平成元年 8月 1日～令和 5年 3月31日

※開示情報に基づいての掲載

機友会

機友会本部の活動状況

機友会本部の活動状況機友会総会は、工学部同窓会総会が開催される年には開催しないことになっているため、本年度の開催はありませんでした。来年度の機友会総会の予定が決まりましたら、改めてご案内させていただきます。

令和5年度 機友会支部の活動を以下のとおり報告します。

福岡支部の活動状況

みなさん、こんにちは。機友会福岡支部長の田中（S58卒）と申します。今回は、福岡支部の活動状況について報告させていただきます。福岡支部は、北部九州（長崎県、佐賀県、福岡県、大分県、山口県）在住の機械工学系学科卒業生で構成されており、会員数は二百数十名となっております。毎年11月第1土曜日に支部総会を福岡市で開催しています。

ここ数年、コロナ感染症の影響により対面開催を見送ってきましたが、本年は4年ぶりの対面開催となり、去る11月11日（土）にアークホテルロイヤル福岡天神にて、来賓3名、卒業生9名の計12名の参加者で開催されました。来賓として、退官恩師で機友会会長の皮籠石先生、現任教員で機友会庶務幹事の福原先生、会計幹事の洪先生に鹿児島よりお越しいただきました。

総会では、会計報告、支部役員改選、協議事項及び連絡事項報告が行われ、会計報告、支部役員改選については執行部提案内容で承認されました。また、協議事項では、大分県の扱いについて、従来より工学部同窓会大分県支部の一員として活動されており、今後福岡支部の管轄からは外していく方向性が報告されました。

その後、懇親会に移り、福原先生と洪先生から学部や機友会の状況報告、個人の近況報告などがありました。久しぶりの対面での会という事で、昔話に花が咲き、最後は柳氏の巻頭言により参加者全員で「北辰斜に」を唱和して会を終えました。

少人数での会ではありましたが、大変有意義な時間を過ごすことができました。

福岡支部の課題としては、総会参加者が年々減少しており、特に若い人の参加が少ない事が挙げられます。執行部としても、本部と連携を取りながら活動の活性化に向けて努力していきたいと思っておりますので、もし該当地域にお知り合いの方がいらっしゃいましたら、是非福岡支部へご紹介ください。それでは、これにて報告を終わらせていただきます。

(福岡支部新役員)

【支 部 長】	田中 宣秀 (S58卒) <留任>
【幹事・会計】	柳 和宏 (S57卒) <留任>
【会計監査】	大久保康志 (S62卒) <留任>



福岡支部総会 2023年11月11日 (土) 集合写真

関西支部の活動状況

令和5年度は7月8日(土)に「新大阪ワシントンホテル」で開催予定でしたが、コロナ禍の影響でやむなく中止といたしました。

令和6年度は7月20日(土)に同ホテルで開催を予定しております。

令和6年にはインフルエンザと同様のウィズコロナとなり、開催できることを会員一同期待しております。

中京支部の活動状況

コロナ感染症蔓延の為3年連続中止となっていました「機友会中京支部総会」を令和5年7月14日(金)に愛知県知立市の「ホテルクラウンパレス知立」にて開催しました。

コロナ感染症が5類へ引き下げられたとはいえ総会開催可能かとの懸念のあるなか準備を進め、機友会本部から皮籠石先生の御来賓を仰ぎ総勢47名での開催となりました。



中京支部総会 2023年7月14日(金) 集合写真

総会は本年度幹事会社の(株)アイシンの司会進行のもと、副支部長の青木幸久氏(S49卒)の挨拶に始まり会計報告及び承認に続き、皮籠石先生より鹿児島大学近況のご報告を頂き、竹島潔氏(S35卒)の発声による乾杯ののち歓談となりました。4年ぶりに交わす挨拶や近況の話題等で親睦を深めたのち会社ごとに近況が報告され大いに親睦を深めることが出来ました。最後は「巻頭言」「北辰斜めに」を合唱し、副支部長青木幸久氏(S49卒)による万歳三唱で盛況のうちに閉宴しました。

中京支部では幹事会を定期的に開催し中京支部総会の活性化に向けた運営を行っています。遠方からの会員や若手会員が参加しやすい環境作り、本部の協力を得ての新卒者への入会の促進などに取り組んでいます。

来年度令和6年7月12日(金)に開催予定です。多くの方のご参加をお待ちしております。

関東支部の活動状況

ご存知のとおりコロナ等の影響により 機友会の集まりは行ってはおりません。

幹事等役員も約10年ぐらい歴任しております。来春には開催したいと思っております。

現在は住所録の見直し等を行っております。進展もなく機械科関東支部長としての任務を全うしますのでご了承方願います。新しい年を迎えましょう。皆様のご安寧を心から願っております。

錦水会

◇鹿兒島支部◇

鹿兒島支部長 池田 浩二

錦水会鹿兒島支部総会報告

今年の総会は、令和5年10月21日（土）に4年ぶりに対面で開きました。新型コロナウイルス感染症は、5月8日に感染症法のいわゆる2類相当から「5類感染症」に変わり、マスクを外しての社会活動が活発になりました。幹事会では対面を前提に総会・懇親会の開催を検討しました。これまで錦水会の総会懇親会に利用していたパレスイン鹿兒島は、コロナに関係なく令和2年3月末に営業を終了していました。幹事会では、新たな会場探しもテーマとして検討して、いくつかの候補から、タイセイアネックスで総会と懇親会を開催することに決めました。

総会に先立って、まず葉山錦水会会長から

「感染症の勢いがまだ収束せず、特に高齢の方が多くいらっしゃる中、安全を最優先に考え、同窓会の参加については慎重に検討されることやむを得ないことと感じています。同窓会の活性化のためには、学内教員との交流を深め、将来の幹事候補も探しています。皆様の協力が不可欠です。自身も高齢ですが、同窓会のために全力を尽くしてまいります。」とご挨拶をいただきました

池田支部長からは、

「若い卒業生の皆様にもぜひ参加いただき、旧南翔会のメンバーとも交流を深めて同窓会を一緒に盛り上げていきたいと思っています。また、同窓会会費は活動の基盤であることから、学生への周知啓蒙を進めています。ご多忙の中、今日はお越しいただき、誠にありがとうございます。」と挨拶がありました。そして、議長に池田支部長を選出して議事を進めました。

まず支部の活動報告においては、毎月の幹事会で行った支部総会等の準備の経過や、昨年は10月22日に、オンラインきばっど会を開催したことなどを報告しました。

続いて、令和4年度の会計収支報告及び監査報告、令和5年度の事業計画及び予算案を審議、承認されました。

今年度の事業計画は（1）規制緩和・ウィズコロナに対応した同窓会活動（2）若手卒業生へのアプローチ推進（3）錦水会の認知度の向上・本学卒でない教員との接触・旧南翔会会員との交流・将来の幹部候補の人材確保の内容になっています。





鹿児島支部総会

総会の前に、学内で講演会「きばっと会」を開きました。先輩OBの方々が在校生に向けて講話をし、学びや示唆に富んだ内容を共有しました。開催時間は13時30分から15時10分までで、場所は建築学科01号教室でした。講師は白石 司氏（S59電子卒、錦水会関西支部長）と大迫政徳氏（H17情報卒、ミラブレ株式会社代表取締役）で、お二人の話は学生たちを引き付ける素晴らしいものでした。



きばっと会写真

白石司氏は、母校山口高校の応援歌「熱球」が旧制七高野球応援歌に由来していることから、学生たちに鹿児島への思いを伝えました。また、鹿児島大学が伊勢路で行われる全日本大学駅伝に39大会ぶりに出場することを達成したと述べ、学生たちに刺激を与えました。さらに、学生時代の友情を大切に、曾野綾子さんの洞察を引用して心に響く話を披露しました。

企業での経験や毎年の欧米の学会や展示会での苦勞についても率直に語り、以下のようなメッセージを送りました。「会社での経験は多岐にわたりますが、その環境に適応することが重要です。失敗は学びの機会であり、迷っている時間はないものです。人

間力の向上は世界で通用する武器を身につけるための日々の努力が不可欠で、ひとりでやることは限られています。」そして最後に、「ビジョンを描き、未来を創る逞しさと、周りに共感を与えるリーダーシップを身に着け、素直な心を持った人間力の高い人になってほしい」と締めくくりました。

大迫政徳氏は、学部時代にデビッド・マーが提唱した脳の研究に魅了され、大学院は、さらなる追求のために県外へ進みました。当時の先輩との繋がりを大切に、今でも定期的に会話を交わしています。卒業後はコンサルティングIT会社を経て、インターネット企業に転職し、ベトナムハノイのオフィスの立ち上げに関わりました。その後、独立し会社を設立し、東京と鹿児島、そしてベトナムにも拠点を置いて、アプリ、WEBサービス、VR・AR、ゲームの企画・開発を手がけています。その話は、まさに現在進行中と感ぜられるものでした。

「頼まれた仕事は基本的に断らずにこなしてきました。共に仕事を遂げた仲間との時間は非常に重要で、縁が繋がって助け合っています。転職後も継続して仕事を依頼してくれることがあります。」と述べています。

また、大迫氏は「日本の外で仕事をすると、他の国では驚くべきスピードで発展と変化が進んでいる。ベトナムは戦後の世代が中心で、高い成長率を維持しています。給料も上昇しており、優秀な学生が多くいますが、一方でシンガポールやアメリカに引き抜かれている現状があります。」AIやチャットGPT、ノーコードツールの進化にも触れ、「5年後や10年後の未来は誰にも予測できない。恐れず未知の世界に飛び込んでください」と学生にエールを送りました。

この講演には80人の学生が出席し、さまざまな質問応答が交わされました。講演資料を用意していただいたり、貴重なお時間を割いていただいた講師の皆様にも、心から感謝申し上げます。

◇関西支部◇

関西支部長 白石 司

令和5年3月18日（土）に大阪市内にて、こぢんまりとした総会を開催しました。ようやくコロナの感染が収まりを見せ始めていたとは言え、まだまだ先を見通すことができない状況下でしたので、来年度の本格開催に向けての弾みとして位置付けて開催致しました。

47年卒の横瀬先輩と支部役員の名のみの参加ではありましたが、4年ぶりの開催となり、近況や来年度に向けての支部運営の在り方などについて話が盛り上がり、大変思い出深い総会となりました。



◇東海支部◇

東海支部長 永野 博

3年間中止してきている東海支部総会ですが、このコロナ環境改善を機に令和5年度は11月に顔を合わせての場を準備してきましたが、ある事情により来春へ順延し開催準備を進めています。

久しぶりの事、積もり積もった話題が参加の皆さんの口から溢れ出ることでしょう。

いらして頂ける大学の先生からの大学近況の話題を傾聴できる事も楽しみにしています。

また一方、東海地区においては大先輩が鬼籍に入られ何か寂しく思い、スッポリと何か抜け落ちた気が一時でしたが、「これからは、あなた達の時代だ。皆んな元気で助け合ってやっていくんだよ!」と、この支部総会を考えるに当たり、いつものごとく理路整然と話を頂いたような気になっている最近です。

写真は過去最多出席を得た東海支部総会H31年度時のもので、久しぶりにあちらの方から大先輩にも登場してもらいました。



◇関東支部◇

関東支部長 田原 洋一

2023年度はこれまでの3年間と違い、世の中が同窓会・懇親会がやり易い雰囲気にはなりましたが、早い時期からインフルエンザの流行等もあり同窓会行事は残念ながら4年連続で中止となりました。

このような中、2024年は「連合同窓会関東支部総会」の開催に向け準備が開始されたことから、支部メンバーと再会できることを楽しみに開催に向け協力していきたいと思えます。

幹事会においては、これまでリモートでのみの開催でしたが対面での幹事会を開催し情報共有できました。また有志による親睦ゴルフを12月に開催し久々の再会を楽しむことができました。



2023年12月 親睦ゴルフにて

2024年は総会、親睦ゴルフ等を通してさらに交流の輪を広げられる年にできればと思います。

◇熊本支部◇

熊本支部長 小田 博昭

コロナ禍のなかで、中止となっていた第25回錦水会熊本支部総会を、コロナの5類への移行に伴い、改善の傾向も見られることから、3年ぶりに10月7日、KKRホテル熊本において開催しました。大学からは先進工学科 情報・生体工学プログラムの福元伸也先生に出席いただき、総勢9名での総会となりました。

総会では、まず、役員改選の議題となり、現在の役員が長期にわたっていることもあり、体調面などから続けることに無理があるとのことで交代の要望があり、2人が交代することになりました。熊本支部では総会への出席メンバが固定され、さらには高齢者中心で、若い人が出席していない現状からすると交代できる人も、なかなか容易でない状況の中では、今後の支部体制の存続に不安を投げかけることにもなりました。そのほか会計・監査報告及び今年度の予算と活動計画について了承されました。

福元先生からは最近の学内の近況報告をはじめ、研究テーマの「画像処理技術で植物・動物の成長を自動診断」についてお話を頂き、野菜の大きさや牛の重量などから出荷時期を適切に判断するスマート農業を目指す研究について話がありました。

懇親会は、最年長の渋谷（S44電気卒）先輩の乾杯により始まり、学内の様子や、久しぶりの再会のため、話が弾み、和気あいあいのうちに時間が過ぎました。最後は、来年はもっと参加者が増えることを期待して、出席者のなかで唯一の若手である中村君（H9電気卒）のあいさつで終了しました。

○新しい熊本支部体制

【支部長】	小田 博昭（S47電子卒）	【庶務幹事】	中川 徹（S47電子卒）
【会計幹事】	小田 博昭（兼務）	【編集幹事】	中川 徹（兼務）
【監査役】	牛島 憲二（S51電子卒）		



第25回錦水会熊本支部総会 令和5年10月7日（土）於 KKRホテル熊本

AOI 会

AOI 会会員の皆様におかれましては、ご清祥のこととお喜び申し上げます。令和 5 年の建築学科の近況と、AOI 会各支部の活動をご報告致します。

本年度は学科教員の退職、着任、異動が多くございました。2023 年 3 月末に計画系教授 鯨坂徹先生がご退職されました。鯨坂先生の後任として計画系教授に柴田晃宏先生が昇任されました。また、2023 年 4 月より計画系准教授に細海拓也先生が着任、10 月には構造系准教授に倉富洋先生が着任されました。細海先生は建築設計、意匠デザインがご専門で、OMA、BIG、Ensamble Studio と世界的に有名な建築家の事務所で設計活動を展開されてきた新進気鋭の建築家です。また、倉富先生は鋼・コンクリート合成構造、木質合成構造がご専門です。更に、計画系教授木方十根先生は工学部長に就任されました。

コロナ禍で停滞していた活動も活発化して行くことと思います。今後とも AOI 会の運営にご協力頂きますよう、どうぞよろしくお願い致します。

新任の教員のご紹介



建築設計意匠分野

細海 拓也
TAKUYA Hosokai

プロフィール

1980 年新潟県生まれ。2005 年横浜国立大学大学院修士課程修了。OMA (オランダ)、BIG (デンマーク) 勤務後、Ensamble Studio (スペイン) における文化庁新進芸術家海外研修員を経て、2013 年細海拓也一級建築士事務所設立。

主な受賞歴に JIA 優秀建築賞、日本建築士事務所協会連合会 会長賞、東京都建築士事務所協会 会長賞、東京建築賞 最優秀賞、Architecture Master Prize Winner など。

研究内容

- ・構造体の再解釈による新たな建築空間の研究
- ・建築と美術が相互に与える影響とその可能性の研究
- ・集合住宅 / 最小限住宅 / プロトタイプ建築 / 移動式建築の研究



建築構造分野

倉富 洋
YO Kuratomi

研究紹介

建築学科同窓会 AOI 会の皆様、初めまして。2023 年 10 月に福岡大学より着任しました倉富洋と申します。建築構造分野を専門としており、木材、鋼材、コンクリートを組み合わせた合成構造の建築を行っております。もともとは鋼とコンクリートを研究対象としてきましたが、最近では国産木材の利活用が推進されていることもあり、鋼構造オフィスビルの床に CLT を取り入れた構法を開発するなど、新しい構造形式の研究に取り組んでおります。これまでの知見を活かし、本学の発展のため、研究教育活動に鋭意努めてまいりますので、今後ともご指導いただけますと幸いに存じます。

プロフィール

1987 年福岡県生まれ。2013 年福岡大学大学院博士課程修了。同年 4 月より福岡大学工学部建築学科助教。

研究内容

- ・鋼構造オフィスビルの床・壁木質化に関する研究
- ・鋼・コンクリート合成部材の構造性能評価法

第16回 AOI会設計優秀賞 授賞式

AOI会設計優秀賞は、建築を学ぶ有望な在学生の設計活動を励ますことを主旨として創設された賞です。本年度はAOI会新副会長の渡島様に来学頂き、授賞式を開催しました。

AOI会設計優秀賞 受賞者

- 1年生 須川 愛子
山中 雪嘉
2年生 富田明日香
吹留 史恵
3年生 仮屋 翔平
長野 雅



受賞者

第21回 建築ナビ「先輩と進路・就職を語る会」

日時 | 2023年12月16日(土) 場所 | 鹿児島大学稲盛会館

講演者紹介

須山 菜穂子 2003年卒
東テク株式会社
「建築設備業界のカーボンニュートラル」

池田 さとみ 2004年卒
株式会社 Dai 建築 DESIGN
「建築設計を仕事にするまで」

三木 健治 1989年卒
株式会社地域計画研究所
「建築と都市計画とまちづくり」



建築ナビ講演者 左より池田氏、須山氏、三木氏

宮崎 AOI 会活動報告

報告 | 梅崎 英一 (H27卒)

2023年7月14日に、宮崎AOI会が開催されました。コロナ禍の規制で長く開催されておりましたが、久しぶりに集まることが出来、有意義で楽しい時間を過ごすことが出来ました。鹿児島AOI会からは下山新会長にご参加頂きました。ありがとうございます。宮崎AOI会も、会長が阿部氏から森山氏へと交代されました。森山新会長のもと、宮崎AOI会も新たに活動していきます



2023年7月14日 宮崎AOI会 集合写真

AOI 会本部活動報告

2023年2月4日に鹿児島大学 稲盛記念館にて AOI 会総会が開催されました。大きな変革としては、武田会長がご退任され、下山氏が後任として新会長に就任されました。武田会長は長きに亘って会長職を務められ AOI 会の発展に尽力されてきました。ありがとうございました。その他、守真氏、揚村先生も役員をご退任されました。ご両人も長く務めて頂きました。下山新会長のもと、世代交代した新体制で AOI 会は盛り上がっていきます！皆様、応援の程、よろしくお願い致します。



就任のご挨拶

AOI 会 新会長 下山 道男

今年より AOI 会の会長となった下山(さがやま)です。80年に卒業して建築の設計をしています。長年 AOI 会長をされていた武田さんの同窓会事業を継続しながら運営を行います。

これまで評議会は年1回の開催でしたが、意見交換の場が必要との意見があり回数を増やしています。また積極的に卒業生の交流が行えるよう各支部での同窓会を行い、11月には関東で100名を超える規模での開催となりました。先生方にも参加していただき懇親を深めることができました。

学生の支援として卒業生による企業案内と懇談会、集中講義、非常勤講師への助成など、これまでコロナ禍で活動ができにくい時期でありましたが、今後活発な活動を進めています。

これからも社会に出てくる後輩の良き先輩となるよう考え、会長として AOI 会の運営を行います。



前武田会長（右）と新下山会長（左）



2023年2月4日 本部 AOI 会 集合写真

関西 AOI 会活動報告

報告 | 関西AOI会 代表幹事 瀬山 憲正 (S47卒)

「未来へ繋ぐ」

この秋、ようやく4年ぶりに関西 AOI 会総会・懇親会が開催できました。

関西 AOI 会の始まりは不明確ながら、先輩の話によれば昭和30年代前半から継続されており、若僧ではとても潜れない大阪一流料亭での総会に参加、堂々とした先輩達ばかりで、焼酎で大いに盛り上がった記憶があります。昭和51年には深紅地に白文字、建築学科「関西 AOI 会旗」が披露され、以降総会・懇親会では「AOI 会旗」を掲げる事が不文律です。

関西 AOI 会では毎年2月「建築学科2年生学外実習」に際し、会員の仲介にて鹿児島では見られない大型建設現場見学会と懇親会を開催し、記録が残っているだけで「大阪国際会議場」「吹田スタジアム」建設現場等々、四半世紀の長期にわたり継続されております。今年見学した建設現場の頼もしい社員は学生研修時に建設現場初体験（たまたま当方がお世話をしたようで）、物づくりの現場に魅力を感じ進路を決めたとの話を聞き、将来ある学生たちの成長の糧に資する事が出来たのは、大変嬉しく、先輩達の継続してこられた足跡を次に向かって歩みを進めなければと意を強くした次第です。

毎年4月「ウォーキングの会」開催、この会も「古都の水、京都を巡る」をテーマに19年間続き、今年から「大阪」へバトンタッチされました。

9月最終土曜日には「総会・懇親会」晩秋には「ゴルフ懇親会」と毎年行事を続けております。

例年の総会・懇親会では、大先輩の懐かしい話、初々しい新入社員のきらきらした眼、充実した中堅の体験話、増えた女性会員の新鮮な話など、「老年・壮年・成年」混然とした貴重な機会、時間が拡がり、「明日に向けて頑張ろう」と会場を後にします。

当たり前のことを当たり前に粛々と続けるには、昭和30年代から60年代、平成、令和の世代の継続と共に世代に合わせた柔軟な対応も必要と思われまます。

関西 AOI 会も次世代へバトンタッチの時期が近づいてきたと思います。

「進取の精神」に溢れる鹿児島大学現役・卒業生の皆様の、健康な日々のご多幸、ご活躍お祈りいたします。



2023年9月30日 関西AOI会 集合写真

関東 AOI 会活動報告

報告 | 関東支部長 荻野 廣己 (S45卒)

「降って湧いた AOI 会関東支部総会」

近年は支部総会は振るわず、長年の執行部も後を受ける者もないまま高齢になった。私の役割はこの執行部を若手に引き継いでもらうことだった。ところがそろそろ次の AOI 会を開かなければと思う頃、パンデミックが発生してその後も手をこまねいていた。今年、思いがけず 2 月に塩屋先生から関東支部の AOI 会を開催しましょう、150 名ほど集めましょうとなって驚いた。関東支部が活動しなければならぬのに今は受け皿がない。塩屋先生発信の ZOOM 会議を何回も開き、終盤になって塩屋研究室ゆかりの卒業生など宛てがって貰いスタッフなど実施係りが整った。

当日は秋らしいいい天気だった。本部からの参加は当初から呼び掛けられて鹿児島、ほか九州、関西などの支部からの参加者を含め 109 名の参加で賑わった。うち 3 名はかわいい幼児だ。遠方からも来られるからと用意したウエルカムドリンクは好評だった。まず支部長荻野の挨拶が始まる。同窓会の意味はなんだろう、会えば「自ずと励まされる」こと、「卒業生の我らが頑張れば在学生も頑張る」と胸中を述べた。武田前会長の乾杯の音頭の後、和気あいあいと歓談して明るい。人数が画期的だけでなく、皆が充実している様はそれぞれが向き合っている持ち場において力を発揮している建築技術者の働き盛りの逞しさが漲っている。幹事長を長くやってた奈良さんがいつの間にか次の幹事長など三役を決めていたので、ステージに上がって承認、あれよあれよという間に次の執行体制も出来上がって、しかも皆が前向きだ、私の懸念は無くなった。2、3 年彼らと執行部活動して AOI 会を盛上げていけるとの自信が湧く。学校を卒業したら矢が放たれただけかと思っていたが、持ち場で研鑽している同窓生各自があり、母校がエールを送っている相互の頼もしさがあった。

青春の懐古だけでなく、現在の皆が旺盛で変わらぬ青春を AOI 会で確かめ讃えるところになりたい。



2023 年 11 月 4 日 関東支部 AOI 会 集合写真

北九州 AOI 会活動報告

報告 | 大隣 薫 (H11卒)

令和5年12月2日(土)に、福岡市中央区天神にてAOI会北九州支部総会・懇親会が行われました。大学からは横須賀先生がお越しくださり、例年通り土田先生と黒木先生にもご参加いただきました。

コロナの影響で中止が続き4年ぶりの開催であることに加え、長らく会場として使用しておりました平和楼が閉店したこともあり、会場をソラリア西鉄ホテルの最上階レストランに移しての開催となりました。例年通り集まるだろうかと心配しておりましたが、最終的に60名近くの方にご参加いただき、楽しく実りのある会となりました。

個人的には、卒業生の参加者に「令和卒」の方がいらっしゃることに驚きつつ、幅広い年代の先輩や後輩との交流の場がこうして続いていることを嬉しくそして誇りに思いました。会の終わりには、皆で円陣を組んで「北辰斜めに」や「焼酎の歌」で締めるのが恒例なのですが、会場がホテルのレストランのため「待った」がかかり歌うことができず、先輩方は少々物足りなくお思いになったのではないのでしょうか。

今後も先輩方に繋いでいただいたこの会を次の世代へ繋げていけるよう、周囲のOBの方にお声かけいただければと思います。



2023年12月2日 北九州AOI会 集合写真

南窓舎密会

令和5年度の同窓会活動と各支部の近況をご報告いたします。

○南窓舎密会本部の活動状況

学生主催のソフトボール大会は昨年度12月から再開され、今年度は例年通り春と秋に開催されました。南窓舎密会総会は、新型コロナウイルス感染症の増加傾向に配慮し、昨年度と同様オンラインでの会合と遠隔参加によるハイブリッド形式での開催となりました。令和5年10月14日（土）に開催された総会では、満塩庶務幹事による開会の辞、下茂会長からのご挨拶、満塩庶務幹事、島田政吉支部長（関東支部）、奥平浩之庶務幹事（東海支部）、田中譲次支部長（関西支部）による活動報告に引き続き、鮫島編集幹事を議長に選出し、令和4年度決算報告・監査報告、令和5年度予算、本部役員の現体制への変更について協議が行われ、すべて承認されました。

また、総会開催に先立ち、平田晃誠氏（株式会社サナス）、山口やよい氏（鹿児島県薬剤師会 試験センター）による講演会が開催されました。

支部会からのお便り

関西支部



今年度は4月の幹事会で関西支部の総会・同窓会を開催しようと決定し、名簿の整理や開催時期等の検討をはじめとして数回の幹事会で準備を行い、10月28日（土）に総会および同窓会を開催しました。当日は南窓舎密会本部の下茂徹朗会長と工学部先進工学科の武井孝行教授にご参加いただきました。

関西地区の会員名簿上で連絡先が判明していた100名以上の方にメールや郵便で声掛けを行いました。幹事4名を含めて9名の参加、先生方も含め11名での小規模な同窓会となりました。ただ、小規模でのメリットもあり、先生方ともゆっくりお話をする時間もできました。

乾杯時には「北辰斜めに」を流し、閉会時には全員で肩を組みあって賑やかに合唱しました。歌詞を全部覚えておられる猛者もいて、その後二次会に向かいました。参加者からは有意義な時間で楽しかったとの声も聞かれました。

残念だったのは、30代が1人と若い方に参加いただけなかったことです。コロナ禍で会員との連絡が取れていなかったことや若い方の同窓会への関心の薄さ、会員の高齢化等を含め、理由は多々あると思います。時代の流れとは考えますが他の支部でいいアイデアがあればご指導いただければと思います。このことについては幹事で同窓会の総括を行い、今後の支部活動の在り方について話し合いたいと考えています。

参加いただいた方々、特に遠方よりお出で頂いた先生方、本当にありがとうございました。今後もよろしく願いいたします。

(関西支部長 田中 譲次)

東海支部

本年度も、支部長：種子田實郎、会計幹事：落合志礼、庶務幹事：奥平浩之、監査：西川路清彦で運営しております。

コロナが落ち着きつつあった春先に役員で集まり、5年ぶりの同窓会を計画することになりましたが、第9波で断念せざるを得ませんでした。ただメールを通しての交流は厳しいことから、来年度は是非面着での開催をと意気込んでおります。

前回の支部総会では、中部地区周辺でご活躍中の恩師にもご参加頂いた結果、遠方からも多くの参加者があり、非常に盛り上がりました。あれから5年、幸いコロナ禍で活動を自粛してきた分、活動費に余裕があるため、前回以上に思い切った策を講じる予定です。また他支部との共同イベント開催により出来るだけ幅広い世代での交流を促し、支部活動を盛り上げていきたいと考えております。

(東海支部長 種子田 實郎)

関東支部

2022年12月に幹事5人が集まり大まかな分担を決め、コロナ禍での支部総会開催は控えることにしました。2023年10月14日42号教室にて開かれた本部総会におけるZOOMアプリを使っての近況・活動報告を行いました。11月5日LINEビデオ通話で幹事会を開き、会員の連絡先把握と連絡方法の多様化（はがき、eメール、LINE）を充実させていこうと決めました。12月に開かれた鹿児島大学同窓会連合会幹事会@新橋に出席しました。2024

年秋に7年ぶりに実施されることになった全学部レベルの同窓会の開催案内状送付など支援します。南窓舎密会関東支部総会は2025年以降開催予定です。

(関東支部長 島田 政吉)

化学生命工学プログラム棟（旧応用化学科棟）の改修（予定）について

化学生命工学プログラム棟（旧応用化学科棟）の改修工事が次年度に行われる可能性がございます。改修工事が決定した場合、現在の姿が見られるのも残りわずかとなります。また、改修工事に伴い、2階図書室に所蔵されている書籍、卒業論文集、修士論文集なども図書館に搬出後廃棄される見込みです。

教員組織

令和5年4月に高瀬 隼助教、令和5年10月に戸谷匡康助教が、それぞれ化学工学プログラムおよび化学生命工学プログラムに着任されました。化学工学プログラムの下之蘭太郎助教、中里 勉准教授が退職されました。



新任教員のあいさつ

化学工学プログラム 助教 高瀬 隼

令和5年4月1日付で学術研究院理工学域工学系化学工学プログラムに助教として着任いたしました高瀬隼です。私は令和5年3月に大阪大学大学院基礎工学研究科化学工学領域で博士の学位を取得し、本学に着任しました。

専門分野は化学工学で、機能性分離材料の開発を行っています。現在の対象は (i) 分子が高秩序で界面に配向し自己集合する自己組織化材料、(ii) 外部から内部への迅速かつ効率的に物質移動を可能とする多孔質材料、(iii) 大規模なデバイス等の工学応用への展開を可能とするポリマー粒子材料に着目しています。各種材料を【融合】することで協奏的に新規機能を惹起し原理解明ならびに工学応用への展開を模索する機能性材料の創成に取り組んでいます。教育の面については、共に育む【共育】を基盤とした教育を心掛け卒業・修了後でも持続して社会で活躍できる人材の育成に微力ながら尽力させて頂きたいと思っています。末筆ではございますが、本学の一層の発展の為、教育・研究に精一杯努めてまいりますので、今後ともご指導のご鞭撻の程どうぞ宜しくお願い申し上げます。



化学生命工学プログラム 助教 戸谷 匡康

令和5年10月1日付で大学院理工学研究科 化学生命工学プログラムに助教として着任いたしました戸谷匡康です。私は奈良先端科学技術大学院大学 物質創成科学研究科 物質創成科学専攻で博士の学位を取得し、同大学院の博士研究員、九州大学の特任助教を経て、鹿児島大学に着任することとなりました。

専門分野は高分子化学で、主にバイオマテリアルや新規な接着材料を精密重合・界面化学に基づく分子設計から機能発現まで探究しています。1989年 ノーベル賞受賞者のパウリ博士が「固体は神の産物であるが、界面は悪魔が創った」と言ったように、様々な物理現象は界面で起こります。しかし、そのメカニズムは未だに解明されていないことが多いです。安心安全で信頼できるモノづくりを実現するため、新しい材料を分子設計からモデル界面に落とし込み、様々な界面現象を学理に基づく新たな知見として見出して行きたいと考えております。着任後、エネルギーに溢れてた学生らと新たな研究をスタートし、毎日が魅力的で楽しい日々を過ごしています。末筆ではございますが、本学の一層の発展のため、教育・研究に精一杯努めてまいりますので、ご指導・ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。

しらなみ会

「しらなみ会会長挨拶」

会長 萩 亮 (昭和52年卒)

しらなみ会会員の皆さん、こんにちは。

コロナ禍の不自由さから解放され、一年が過ぎようとしています。皆さんそれぞれの環境の中で、お元気でお過ごしのことと拝察いたします。

同窓会活動も、今年度はやっとコロナ禍前の状況を取り戻しています。昨年4月には、やっと4年ぶりに、総会懇親会を開催することができました。100名を超える会員の参加を得て、稲盛記念館のレストランを貸し切って、にぎやかな会になりました。また、10月には、第2回の「卒業生による講演会」を、工学部の稲盛会館ホールで開催しました。昭和52年卒業第1期生の岩田充弘氏を講師に迎え、「土木の世界はどこへ行く」と題して、後輩に向け経験談など熱く語っていただきました。多くの学生、OBに参加してもらい、懇親会も大変盛り上がりました。経験豊かな卒業生から後輩学生へのメッセージとして、今後もこの講演会を続けていきたいと思えます。

令和5年は、学科創設50周年の節目の年でした。コロナ禍の中十分な準備態勢が取れず、同窓会として記念行事を行うことができませんでしたので、やや変則ではありますが、55周年に記念となる取り組みをしたいと考えています。この旨、昨年の総会にもお諮りし、賛同いただいたところです。近づいて来ましたら、改めてご案内しますので、皆様のご協力をよろしくお願いします。

令和6年度も、皆様の輝かしいご活躍の年となることを心から祈念申し上げます。

「しらなみ会本部活動報告」

本部庶務幹事 木佐貫 浄治 (平成2年卒)

(1) 第20回しらなみ会総会

コロナ禍を経て4年ぶりに「しらなみ会総会」を令和5年4月22日に稲盛会館において開催しました。総会は84名の参加をいただき、事業報告、会計報告、監査報告を行い、承認をいただきました。また、令和5年度、6年度の事業計画及び予算など提案した議案について承認をいただきました。



総会の後は、昭和55年卒業で、昨年度末で退官されました山城徹先生から「鹿児島大学47年間の巡り会い」と題して、御講演いただきました。

山城先生は、海洋土木開発工学科（当時）を卒業されてから、助手や講師等を経て退官されるまでの研究や学科の変遷、更には、タイトルのとおり、いろいろな方との巡り会いについてのお話であり、私たち卒業生にとっては、興味深く、懐かしくなる内容でした。これまでの研究や同窓会活動に対する御労苦に敬意と感謝申し上げます。また、引き続き、同窓会を暖かく見守ってください。

また、懇親会を104名の参加のもと、学内に新たに開店した稲盛記念館のレストランにおいて開催しました。鹿児島県内に在住の方が中心ですが、全国にある各支部長や総会を機会に鹿児島に来ていただいた卒業生も参加していただき、久々に懇親を深めることができました。

(2) 卒業生による講演会

令和5年10月25日に、2回目の試みとなる「卒業生による講演会」を開催しました。講師は海洋土木開発工学科（当時）の第1期生（S52年卒）であり、現在、株式会社竹中土木 取締役執行役員副社長の岩田充弘さんをお願いしました。

「土木の世界はどこへ行く」と題して、御講演いただき、学生約100名が興味深く聞き入りました。

更に、講演会後は学生、教職員や卒業生も含め約150名意見交換会を海土棟で行い、非常に楽しい、学生にとっても有意義な時間を過ごすことができました。（工学同窓会諸活動支援事業を活用させていただきました。）

(3) その他

同窓生活動の情報、御意見・御要望、何でも結構です。気軽に連絡をください。

E-mail（木佐貫）：george@po.synapse.ne.jp（自宅）

kisanuki-george@pref.kagoshima.lg.jp（勤務先：鹿児島県庁）

〔件名に「しらなみ会」という文字を入れていただければ助かります。〕

また、しらなみ会ではホームページを立ち上げています。

上記の詳細な情報や同窓会活動、各支部の連絡先などについて掲載しています。

〔「しらなみ会」で検索してください。〕

HP：http://oce.oce.kagoshima-u.ac.jp/~shiranami/index.html

「関東支部活動報告」

関東支部長 坂井 良輔（平成24年卒）

令和3年度より関東支部長を務められました、安藤滋郎様（平成7年卒）の転勤に伴い、令和5年4月に関東支部長を拝命いたしました。前支部長の安藤様には、2年間という短い期間でしたが、コロナ禍での難しい状況下での関東支部の運営、活動にご尽力頂きました。心より感謝申し上げます。

さて、令和5年度の関東支部の活動は、令和5年6月23日（金）に都内（茅場町）にて懇親会を開催し、昭和56年卒～平成27年卒の13名（昭和卒6名、平成卒7名）の方々にお集まりいただきました。約3年半ぶりの居酒屋での開催となり、美味しい料理やお酒とともに益々の親睦が図られました。また、令和5年度第2回の懇親会（新年会）も令和6年1月に計画されており、前回は上回る21名が参加予定です。少しずつではありますが、関東支部の活動もコロナ禍前の状況に戻りつつあります。これもひとえに、関東支部事務局、会員の皆様のご協力のおかげです。

今後も、しらなみ会関東支部では、就職や転勤で関東地区に赴任される方は勿論のこと、学会等で関東へお越しになる先生、学生、同窓生との懇親の場を設けていきます。職場の飲み会ほど堅苦しくなく（?!）、世代の垣根を越えて、学生時代の思い出話などで盛り上がる会になっているかと思えます。優しく心強い先輩方ばかりですので、若手の皆さんも遠慮なくご参加ください。



令和5年度 第1回関東支部懇親会（令和5年6月23日）

「関西支部活動報告」

関西支部長 大田 英司（平成7年卒）

コロナによる数年間の自粛を経てようやく、5月17日に懇親会を開催することができました。久しぶりにリアルで会えたことで非常に盛り上がりました。また、退官後に拠点を関西に移された浅野敏之先生もご参加いただけ、いつも以上に話が盛り上がりました。浅野先生は今後ご参加いただけるとのことで楽しみにしています。また、コロナ過であっても関西に移動されてきた卒業生もいるので、今後も継続的に活動していきたいと考えております。



懇親会の様子（令和5年5月17日開催）

「福岡支部活動報告」

福岡支部長 橋本 康範（平成7年卒）

○令和4年度

しらなみ会&機友会の共同幹事により、鹿児島大学同窓会連合会福岡支部“福岡北辰斜の会2023”の総会・講演会・懇親会を令和5年2月18日（土）に無事開催することができました。

特に、講演会は、しらなみ会を代表して朝崎さん（S60卒）から、「九州の水力発電について」と題した講演を行っていただき大変好評でありました。

しらなみ会会員皆様のご活躍を、他学科学部の同窓生の皆様にも広く知ってもらえるいい機会であったと感じております。関係者の皆様、大変お世話になりました。ありがとうございました。

○令和5年度

4年ぶりとなります福岡支部の総会と懇親会を、令和5年11月10日（金）に無事開催することができました。久しぶりの再会を喜ぶとともに、これからのお互いの頑張りや目標を確認しあえる有意義な場となりました。



懇親会の様子（令和5年11月10日開催）

また、鹿児島大学同窓会連合会福岡支部“福岡北辰斜の会2024”の総会・講演会・懇親会は、令和6年2月17日（土）16時30分から、アークホテルロイヤル福岡天神で開催予定です。皆様のご参加をお待ちしております。

ここ数年でご異動など環境に変化が起きている方も多いようです。何かありましたら、お気軽に支部長橋本までご連絡ください。

（橋本） hashimoto.y02@city.fukuoka.lg.jp

鹿児島大学工学部稲盛学生賞

(令和5年度)

令和5年度

[機械工学プログラム]	川ノ上靖子	松尾 遼
[電気電子工学プログラム]	小原 雅史	坂元 達郎
[海洋土木工学プログラム]	永田 恵大	JACKSON KONG ZHE SHENG
[化学工学プログラム]	松山 陽	今村 桃子
[化学生命工学プログラム]	清野 優弥	山口 幸輔
[情報・生体工学プログラム]	古田 知大	齋藤 和摩
[建築学プログラム]	吹留 史恵	富田明日香

※ (現 理工学研究科博士前期課程 工学専攻化学工学プログラム 1年)

鹿児島大学工学部稲盛学生賞規則第3条により、学部から飛び級した博士前期課程1年生を含む

累積学部長賞・成績優秀賞

(令和4年度)

令和4年度累積学部長賞

[機械工学科]	吉次 凌	肥後 陵佑	高田 滉貴	西堂 佑亮
	山岡 拓瑞	馬場 亘輝	田辺 敦史	木良 聡志
	佐藤 直輝	吉川 純平		
[電気電子工学科]	長谷 健吾	時任 勇大	元松 武大	三輪 啓伍
	濱島 修平	向井 大輔		
[海洋土木工学科]	大手 悠平	福永龍之介	小田柿晶紘	
[環境化学プロセス工学科]	桐原 己沙	氏田峻ノ介	松尾 圭祐	中田 優也
	園田 達人	半田幸太郎	佐用 拓海	坂本 晴哉
	辻川 直登	横山 侑汰	岸本 蒼空	河野 優斗
	濱田広太郎	山内 優奈	木許 花菜	小松 怜央
[化学生命工学科]	月岡 真子	堤 萌夏	紺谷 藍	森永 聖也
	谷山 駆	横山かれん	高山 優香	谷生 裕隆
	飯山 千晴	林 芹香	中村 莉緒	畑地 良海
[情報生体システム工学科]	眞島 京音	桃木野真歩	濱田 悠樹	川畑 裕哉
	森本 文哉	末永 星良	矢野 俊輔	永井 裕也

	久保 莞太	比良 太政	柿元 皐志	外内 晃喜
	磯村 彩夏	日下部 尊	宮園 拓斗	松永 翔
	小平 淳輔	豊丸 雅一	日高 流聖	外蘭 森琉
	廣瀬 雄大	中原 直希	矢野 豊久	石橋めぐみ
	藤崎 有生			
[建 築 学 科]	野口 理紗	石川華菜子	宮原 由輔	花村 咲
	和田奈津子	小林 和真	中村 真子	木戸なぎさ
	仮屋 翔平	古屋 昂大	植野 緑彩	森元 彩寧
	吉見 春奈	米盛 颯太		

令和4年度累積成績優秀賞

[機 械 工 学 科]	谷口 史弥	塩浦 広大	倉員 友希	墨田 真也
	實方 融	坂田 尚哉	坂口ひかり	濱崎 恭介
	川畑 貴寛	池尻 軍馬	内村 友哉	松嶋 孝哉
	三重野将伍	有松 和樹	芝 幸祐	吉川 諒祐
	渡邊 咲瑛	吉原 風花	増原 大稀	上野 優真
	モハメッド カマル イルファン		山本 純也	清藤 大輝
[電 気 電 子 工 学 科]	山下 耀梨	大浦健太郎	吉田 尚貴	前田 響平
	山本 政樹	岡元 達弥	梅野 大樹	前田 陸
	森山 広聖	桑原 悠輔	山崎大次郎	河内 優樹
	永田 秀輝	摺木 惇人	中川 心平	
[海 洋 土 木 工 学 科]	岡野 光汰	福永 竜世	出口 青空	立石 大志
	今長谷円香	岩永蓮大郎	猿渡 幸子	藤原 倫大
	嶋井 里佳	富吉 陽斗		
[環 境 化 学 プ ロ セ ス 工 学 科]	草野 奈央	下川 拓能	細川 裕平	
[化 学 生 命 工 学 科]	瀬戸山仁菜	宮原 雄太	野中 翔	内匠 優友
	高橋 涼太	赤池 駿弥	吉村 海	堀田 彩音
	小城 朱璃	福田 一紗	田中 深那	
[情 報 生 体 シ ス テ ム 工 学 科]	平山 凌	寺田 拓矢	小川 泰毅	章 奇嘉
	加藤 浩祐	飯塚 雅文	阿部 絢太	平山 景都
	永石 一貴	小林 雄大	鮎川真輝斗	迫田 大翔
	値 和徳	馮 楚恵		
[建 築 学 科]	北 秀幸	平山あかね	南新 幹太	今村 圭吾
	中村ゆり乃	長野 雅	碓野 匠	陶山 巧
	岡野 蓮	嶋尾 恭兵		

※学生係からの情報に基づき掲載

岸園賞

平成21年4月故岸園司前同窓会会長からの寄付により、平成23年に創設されたのが岸園賞です。対象者は工学部の同窓会会員、学生、大学院生で次の各号の一に該当し、拡大幹事会で決定した会員に与えられます。

- 1) 鹿児島大学工学部の名を高めた者
 - 2) 工学部同窓会活動に尽力した者
 - 3) その他前1) 2)号と同等以上の表彰に値する行為があったと認められる者
- *平成25年8月23日の会則改正により個人のほか団体も対象となりました。

○これまでの受賞者

- 平成23年 ●袖山 研一氏 (応化61)
●武若 耕司氏 (海土52)
- 平成24年 ●有馬 純治氏 (電気41)
- 平成25年 ●安井建築設計事務所AOI会グループ (関西AOI会事務局)
守安聡司氏 (建築H1) 長崎大典氏 (建築H5)
中原岳夫氏 (建築H7) 奥 貴人氏 (建築H9)
山本善宏氏 (建築H11)
- 平成26年 なし
- 平成27年 ●鹿児島大学工学部同窓会大分県支部グループ
大石 喬氏 (応化37) 和田正遠氏 (建築25)
三原久正氏 (応化28)
●下茂 忍氏 (機械34)
- 平成28年 ●三宅征夫氏 (応化43)
- 平成29年 ●福井泰好氏 (特別会員)
●今村 彬氏 (電気29)
- 平成30年 ●炭谷圭二氏 (機械第二55)
- 令和元年 なし
- 令和2年 ●鹿大北辰会 (機友会)
太田芳明氏 (機械43) 大宮司尚氏 (機械43)
堤 直敏氏 (機械43) 柿元邦彦氏 (機械第二43)
- 令和3年 なし
- 令和4年 ●熊澤 典良氏 (特別会員)
- 令和5年 なし



日本経済新聞社と日経HRによる企業の人事担当者から見た大学イメージ調査の「就職力ランキング」で鹿児島大学が九州・沖縄地区2位、「大学の取り組みランキング」で全国1位を獲得

鹿児島大学HPより転載 [記事掲載日：23.06.08]

日経HRと日経新聞社が2023年6月7日に公表した企業の人事担当者から見た大学イメージ調査「就職力ランキング」で、鹿児島大学が九州・沖縄の総合ランキングで昨年の5位から2位（全国では15位）に浮上しました。同じ調査の「採用を増やしたい大学ランキング」でも、全国で2位と高い評価を受けています。

この調査は、2023年2月14日～3月22日に全上場企業と一部有力未上場企業5070社を対象に実施されたものです（有効回答数は738社）。「就職力ランキング」は、企業の人事担当者に過去2年間に新卒として採用した各大学の学生のイメージを聞く「企業の人事担当者から見た大学イメージ調査」の結果をもとに作成しており、採用実績のある大学を人数の多い順にあげてもらい、学生のイメージは主体性などを見る「行動力」、コミュニケーション力などを見る「対人力」、論理的思考力などを見る「知力・学力」、創造力などを見る「独創性」の4つの側面で評価しているとのこと。

本学卒業・修了生は、4つの側面のうち「行動力」と「独創性」の得点が高く、企業の人事担当者から「人間力が高い印象を受けている」と高評価でした。

また、この調査では、企業の人事担当者に対し、大学の取り組みに対する評価も聞いており、本学は「大学の取り組みランキング」の総合ランキングで全国1位を獲得しています。

取り組み別のランキングでも、「授業改善に取り組む大学ランキング」4位、「すぐれた研究に取り組む大学ランキング」17位、「地域の活性化に貢献する大学ランキング」2位、「就職支援に熱心に取り組む大学ランキング」2位、さらに「学習環境が整っている大学ランキング」1位と、多くの項目で上位を占めました。

本学は今後も「南九州から世界に羽ばたくグローバル教育研究拠点」を目指し、自主自律と進取の精神により地域社会や国際社会で活躍しうる人材の育成に力を入れて参ります。
※詳細は2023年6月7日発売の「日経キャリアマガジン特別編集 価値ある大学 就職力ランキング 2023-2024」に掲載

令和6年3月卒業及び修了生進路

(令和5年12月現在)

機械工学プログラム

【令和6年】

アイル
アップセットNEO
愛知時計電機
インフラテック
上野精機
SCSKニアショアシステムズ
京セラ
九電工
コーアガス日本
コベルコ建機
光和精鋳株式会社
JASM
JR九州
スクリーンSPサービス
スズキ
住友ベークライト
大成建設
大福コンサルタント
テクノプロデザイン社
テルミック
トヨタ車体研究所
東プレ
日産自動車
日東電工
日本エアコミューター(株)
日立建機
プライメタルズテクノロジーズジャパン
マツダ
三浦工業
三菱電機エンジニアリング
安川コントロール
鹿児島大学大学院理工学研究科
その他

工学専攻機械工学プログラム

【令和6年】

ANAグローバルスタッフ
アイシン
アドソル日進
アマダ
ANAグローバルスタッフ

SUMCO
カワサキモーターズ
川崎重工業
京セラ
九電工
グローリー
小松製作所
JASM
シスメックス
スズキ
全日本空輸
ソニーセミコンダクター
ダイキン工業
大日本印刷
デンソー
TOTO
トヨタテクニカルディベロップメント
トヨタ自動車
トヨタ自動車九州
東京エレクトロン
東電設計
日産化学
パナソニックインダストリー
パナソニックオペレーショナル・エクセレンス
日野自動車
ファナック
マツダ
牧野フライス
三菱ビルソリューション
三菱重工業
ムサシ精密工業
村田機械
ヤマハ発動機
リクシル
レーザーテック
レゾナック

電気電子工学プログラム

【令和6年】

アイコム
京セラ
九州NSソリューションズ
九電工

きんでん
サンテック
三洋物産
積水化学工業
ソニーセミコンダクタマニュファクチャリング
太平電業
東芝デバイスソリューション
ドコモCS九州
はるni
日産自動車
日鉄鋳業
ベニックスソリューション
三菱電機ビルソリューションズ
明電システムソリューション
安川コントロール
矢野特殊自動車
リックス
ローム・アポロ
公務員(鹿児島県庁)
公務員(名古屋市役所)
鹿児島大学大学院
熊本大学大学院

工学専攻電気電子工学プログラム

【令和6年】

アズビル
NEC
NTTデータセキスイシステムズ
NTT西日本
NTTデータMSE
鹿屋電子工業
九州電力
京セラ
JR東海
シャープ
住友金属鉱山
ソニーセミコンダクタマニュファクチャリング
ダイキン工業
大日本印刷
T&D情報システム
テラデザイン
トヨタ車体研究所
日東電工

日本電産モビリティ
パナソニック
パナソニックエナジー
パナソニックエンターテインメント&コミュニケーション
日立ソリューションズ
富士通
マブチモーター
三菱重工業
三菱電機
安川電機
ラキール
LIXIL
レシップホールディングス
リコー ITソリューションズ

情報・生体工学プログラム

【令和6年】

ジェイズ テクノロジー
テクノアート
Cygames
ソニーセミコンダクタマニュファクチャリング
平田機工
リコージャパン
富士通Japan ソリューションズ九州
ドコモCS九州
アプリファクトリーはるに
JFEプラントエンジニア
日本コンピューター
シティアスコム
NECソリューションイノベータ
ユナイテッド・セミコンダクター・ジャパン
公務員（鹿児島市役所）
ビッグツリーテクノロジー&コンサルティング
（株）リバスタ
南国システムサービス
トヨタ・コニック・プロ（旧デルフィス）
マイスターエンジニアリング
アウトソーシングテクノロジー
株式会社ユニテックス
株式会社SRD
京セラコミュニケーションシステム
日本コンピューター
株式会社ナンチク
ソリトンシステムズ
鹿児島大学大学院理工学研究科
九州工業大学大学院

工学専攻情報・生体工学プログラム

【令和6年】

ローム
ソニーセミコンダクタソリューションズ
セック
キャタピラー九州
システムメディア
NTTドコモ
兼松
シャープ
NECソリューションイノベータ
富士通ゼネラル
ソフトバンク
トヨタ車体研究所
三菱電機
現場サポート
NTT 西日本
パナソニックインダストリー
三菱電機
構造計画研究所
富士通ゼネラル
ニッセイ情報テクノロジー
インターネットイニシアティブ
パラマウントベット
NTTコムウェア
SCSKニアショアシステムズ
京セラ
クラウドエース

建築学プログラム

【令和6年】

(株)志賀設計
(株)七呂建設
日本生命保険(株)
大和リース(株)
(株)エストラスト
(株)国分ハウジング
(株)竹中工務店
(株)大林組（2名）
高砂熱学工業(株)
(株)スペースエージェンシー
(株)佐伯建設
(株)大本組
(株)JFE設計
清水建設(株)

Dell Technologies Japan Inc.
鹿児島市役所（3名）
霧島市役所
鹿児島大学大学院理工学研究科（32名）
九州大学

工学専攻建築学プログラム

【令和6年】

生和コーポレーション(株)（2名）
(株)大林組
ユニオンシステム(株)
(株)島忠
積水ハウスリフォーム(株)
日本郵政(株) 施設部
九州旅客鉄道(株)
TOTO(株)
(株)長大
鹿島建設(株)
(株)ランドスケープ・プラス
太陽工業(株) 本社
大和ハウス工業(株)（2名）
大東建託(株)
(株)モデュレックス
(株)熊谷組
(株)石本建築事務所
三協フロンテア(株)
西日本技術開発(株)
(株)銭高組
(株)奥村組
(株)構造計画研究所
パシフィックコンサルタンツ(株)
松尾建設(株)
鹿児島市役所

化学工学プログラム

【令和6年】

高田工業所
住友大阪セメント
日本ガス
宮崎市役所
九州イノアック
日清紡マイクロデバイス福岡
日本ゼオン
三井化学 大牟田工場

京セラ
鹿児島大学大学院

工学専攻化学工学プログラム

【令和6年】

太平洋セメント
山本化成
AREホールディングス
ラピスセミコンダクタ
UBE
太平洋セメント
三井化学
日本コークス
森松T&E
Denka
クレハ
日油
福岡市役所
JNC
ニチアス

化学生命工学プログラム

【令和6年】

NECソリューションイノベータ
京セラ
茂平ジャングループ
GMOベパボ
鹿児島大学大学院理工学研究科
東京工業大学生命理工学院
九州大学総合理工学府

工学専攻化学生命工学プログラム

【令和6年】

AGC
化学物質評価研究機構
クレハ
持田製薬工場
サノヤスホールディングス(株)
日本ゼオン
テクセリアルズ
新日本科学
東洋紡

山本化成
小川香料
上野精機
ソニーセミコンダクタマニュファクチャリング
UACJ
防衛省防衛装備庁
関東化学
日本血液製剤機構
日産自動車
サミー
DIC
鹿児島大学大学院理工学研究科

海洋土木工学プログラム

【令和6年】

奥村組
オリエンタル白石
五洋建設
大豊建設
東亜建設工業
東洋建設
飛鳥建設
西松建設
日本ピーエス
前田建設工業
横河ブリッジ
インフラテック
オリエンタルコンサルタンツ
日本工営
エーワンコンサルタント
谷山不動産
九州旅客鉄道
西日本高速道路
大分県
熊本県
宮崎県
鹿児島県
宮崎市
鹿児島市
八王子市
神戸市消防局
鹿児島大学大学院理工学研究科

工学専攻海洋土木工学プログラム

【令和6年】

安藤・間
大林組
竹中土木
東洋建設
建設技術研究所
日本工営
西日本高速道路
佐賀県

同窓会役員名簿および部会

令和5年10月現在

顧問	木方十根 (工学部長)
会長	宮城泰児 (建築58)
副会長	5部会会長に同じ
庶務幹事	鷹野 敦 (建築H14)
会計幹事	吉留俊史 (応化60)
編集幹事	福原 稔 (機械56)
監事	重井徳貴 (電気H4)
監事	濱田成敏 (海士61)

【評議員】

◆機友会 (機械工学科、機械工学第二学科 機械工学プログラム)

池田清和 (56)	福原 稔 (56)
湯地俊昭 (57)	江口之浩 (H1)
野妻光彦 (H1)	岡元 徹 (H2)
立山康弘 (H4)	小原裕也 (H19)
洪 定杓 (特別会員)	達野貴之 (H30)

◆南窓舎密会 (応用化学科、化学工学科、応用 化学工学科、生体工学科 (生体 機能材料工学コース)、環境化学 プロセス工学科、化学生命工学科、 化学工学プログラム、化学生命工 学プログラム)

鎌田薩男 (34)	染川賢一 (39)
下茂徹朗 (46)	大竹孝明 (52)
吉留俊史 (60)	安藤浩毅 (H2)
伊藤博雅 (44)	中島常憲 (H6)
小幡 透 (H7)	有水伸一 (H7)

◆錦水会 (電気工学科、電子工学科、電気電 子工学科、情報工学科、生体工学 科 (生体電子工学コース)、情報 生体システム工学科、電気電子工 学プログラム、情報・生体工学プ ログラム)

永野 博 (46)	権藤正信 (52)
本田 博 (52)	小田博昭 (47)
池田浩二 (51)	小川重訓 (54)
淵田孝康 (63)	川越明史 (H9)
向田善博 (H9)	鹿嶋雅之 (H11)

◆しらなみ会 (海洋土木開発工学科、 海洋土木工学科、 海洋土木工学プログラム)

武若耕司 (52)	萩 亮 (52)
濱田成敏 (61)	羽田好勝 (59)
木佐貫浄治 (H2)	山中浩平 (H2)
審良善和 (H11)	濱園 誠 (H13)
酒匂一成 (H13)	長山昭夫 (H16)

◆A O I 会 (建築学科、建築学プログラム)

肥後潮一郎 (H4)	日野真琴 (H7)
峯元信明 (H13)	重留巧治 (H13)
吉松哲史 (H13)	鷹野 敦 (H14)
當房和博 (H17)	益田亜季 (H20)
新留洋平 (H25)	山本詩織 (H27)

工学部同窓会事務局
窪田玲子 TEL/FAX 099-285-3494
学内TEL/FAX 8317

部会各支部役員名簿

◆機友会

会	長	皮籠石	紀雄	(45)
庶務	幹事	福原	定稔	(56)
會計	幹事	洪	杓	(特別会員)
會計	幹事	小金丸	正明	(特別会員)
編集	幹事	達野	貴明	(H30)
編集	幹事	池田	徹	(特別会員)
監	幹事	吉満	正美	(53)
監	幹事	谷口	康太郎	(H17)
関東支部	長	内門	暉史	(43)
中京支部	長	齋藤	和幸	(47)
関西支部	長	篠崎	信一郎	(44)
福岡支部	長	田中	宣秀	(58)

◆錦水会

会	長	葉山	勝年	(41)
副会	長	永野	博昭	(46)
副会	長	小田	博昭	(47)
庶務	幹事	向田	善博	(H9)
會計	幹事	曲田	畜二	(46)
編集	幹事	小川	重訓	(54)
監	幹事	濱田	信之	(41)
監	幹事	原口	俊幸	(53)
学内庶務	幹事	淵田	孝康	(63)
学内會計	幹事	川越	明史	(H9)
学内編集	幹事	鹿嶋	雅一	(H11)
関東支部	長	田原	石司	(59)
関西支部	長	白野	博信	(46)
東海支部	長	権藤	正博	(52)
福岡支部	長	小本	田博	(52)
熊本支部	長	池田	浩二	(51)
宮崎支部	長			
鹿児島支部	長			

◆AOI会

会	長	下山	道男	(55)
副会	長	塩屋	晋一	(57)
副会	長	渡島	秀夫	(H2)
相談	役員	武田	敏郎	(42)
相談	役員	坂	徹	(特別会員)
顧問	顧問	徳富	久二	(42)
顧問	顧問	守真	和弘	(41)
監	幹事	二藤	英俊	(H10)
監	幹事	川井	烟忠	(H8)
事務	幹事	曾我	和弘	(H6)
庶務	幹事	増留	麻紀子	(H11)
編集	幹事	塩屋	晋一	(57)
會計	幹事	荻野	廣己	(45)
関東支部	長	瀬山	憲正	(47)
関西支部	長	佐伯	憲二	(48)
北九州支部	長	和田	正遠	(25)
大分支部	長	森	福一	(55)
宮崎支部	長			

◆南窓舎密会

会	長	下有	茂	徹	朗	(46)
副会	長	大	水	伸	一	(H7)
監	幹事	安	竹	孝	明	(52)
代表	幹事	新	地	浩	毅	(H22)
庶務	幹事	地	藤	浩	勝	(H6)
庶務	幹事	満	塩	博	雅	(44)
庶務	幹事	伊	藤	高	師	(53)
庶務	幹事	山	本	正	樹	(H8)
庶務	幹事	東		幸	治	(55)
庶務	幹事	西牟	田	幸	誠	(H4)
庶務	幹事	鳥	原	木	修	(H5)
庶務	幹事	黒	木		憲	(H6)
會計	幹事	中	島	常	やよい	(58)
會計	幹事	山	口	孝	介	(H22)
會計	幹事	森	蘭	卓	朗	(H28)
編集	幹事	増	永	周	平	(H6)
編集	幹事	橋	口		透	(H7)
編集	幹事	小	幡		将真	(H22)
編集	幹事	鶴	田		宗一郎	(論博H13)
教員評議	員	鮫	島		昌弘	(特別会員)
関東支部	長	吉	田		政吉	(47)
東海支部	長	種子	田		實郎	(41)
関西支部	長	田中			讓次	(46)
北九州支部	長	代行	片山		佳樹	(57)

◆しらなみ会

会	長	萩		亮	(52)	
副会	長	羽田	好	勝	(59)	
監	幹事	濱田	成	敏	(61)	
庶務	幹事	木佐	貫	浄	治	(H2)
庶務	副幹事	審	良	善	和	(H11)
會計	幹事	濱	園		誠	(H13)
會計	副幹事	長	山	昭	夫	(H16)
編集	幹事	山	中	浩	平	(H2)
編集	副幹事	酒	匂	一	成	(H13修)
東北支部	長	山	田	満	秀	(H7)
関東支部	長	坂	井	良	輔	(H24)
関西支部	長	大	田	英	司	(H7)
福岡支部	長	橋	本	康	範	(H7)
鹿児島支部	長	羽	田	好	勝	(59)

◆工学部同窓会大分県支部

支部	長	清田	喜	之	(建築46)	
支部	長	郷	之原	豊	(応化H1)	
幹事	長	渡	辺	高	行	(機械49)
顧問	顧問	和田	正	遠	(建築25)	
顧問	顧問	大	石	喬	(応化37)	

本部 だより

令和4年度

鹿児島大学工学部同窓会 拡大幹事会報告

日時：令和5年8月18日(金)

16:00～17:00

会場：鹿児島大学学習交流プラザ 2F 学習交流ホール

出席者：

本部 宮城泰児会長、鷹野敦庶務幹事、福原稔編集幹事、吉留俊史会計幹事、濱田成敏監事、重井徳貴監事

機友会 皮籠石紀雄会長、福原稔庶務幹事、洪定約会計幹事、池田徹編集副幹事

錦水会 葉山勝年会長、淵田孝康庶務幹事、川越明史会計幹事、池田浩二鹿児島支部長

AOI会 下山道男会長、曾我和弘庶務幹事、増留麻紀子編集幹事、藤井英俊監事、峯元信明評議員、鷹野敦評議員

南窓舎密会 下茂徹朗会長、大竹孝明監事、満塩勝庶務幹事、橋口周平編集幹事、山口やよい会計幹事、中島常憲会計幹事、増永卓朗会計幹事

しらなみ会 萩亮会長

事務員 窪田玲子 計27名

宮城泰児会長より開会のあいさつがなされた

議題2. 令和4年度同窓会運営報告

1) 令和4年度同窓会行事および会議報告

○庶務、会計、編集、同窓会連合会の会議報告

2) 令和4年度本部会計決算報告

○一般会計、周年事業準備基金、岩崎基金、岸園基金の決算報告

3) 会計監査報告

○濱田監事より令和5年5月31日に会計

監査が実施され、通帳・帳簿・領収証が適正に処理されていると報告された。

4) 同窓会名簿第16号第4版CD発行報告
○発行枚数、発行費の報告。卒業、修了式に配布

5) 会報「南風桜」第20号発行報告

○製本数、発行費、予算額との比較

○学内配布は部会の意向による数

1)～5)について異議なく承認された。

議題3. 令和5年度同窓会運営計画

1) 令和5年度同窓会行事および会議報告と計画

○新型コロナが5類へ移行され対面での会議に戻りつつある。

2) 令和5年度本部会計予算案

○今年度より会費徴収にクレジット決済が導入されたことを受け、クレジット決済に係る費用を計上。

○3年毎の同窓会総会に係る費用を計上

○工学部事務助成費は工学部から要請を受け減額

○周年事業準備基金を減額の10万とする。理由は会費納入率の低下のため

3) 会費納入状況および本部・部会への配分額

○郵便振込、事務局への直接納金は令和5年6月21日メ、クレジットは令和5年5月31日メで計上

○会費納入率の向上の手立てを模索している。良い案があればご提示いただきたい

*8月21日に部会指定口座へ入金済み

4) 同窓会名簿第16号第5版CD発行計画

○印刷業者、発行枚数、予算案の提示

5) 会報「南風桜」第21号発行計画

○印刷業者、見積もり、今後の流れの説明

○部会希望数で冊数を決定する

○紙代の高騰から費用が掛かるため、第22号では費用について要検討課題とする

6) 同窓会名簿第17号について

○12月に(株)サルトと契約予定

○会報にて会員へお知らせを行う。

7) 工学部同窓会学生諸活動助成について

○例年通り募集を行う。1 PGにつき上限3万円。申請には庶務幹事の署名・捺印が必要

8) 工学部同窓会諸活動支援について

○例年通り募集する。活動計画は各部会、工学部、理工学研究科の主催者に委ねる。

9) 次期本部役員について

○会長はじめ各幹事の担当部会が示された

10) 工学部同窓会評議会、講演会、総会、懇親会について

○これからの流れを説明

○会場は中原別荘。

*8月23日に正式予約済み

11) 慶弔費について

○平成18年に制定された規定に以下を加える。「弔事は本部、部会の現教員を対象に加える」

1) ~ 11) について異議なく承認された

今年度岸園賞の推薦はなかったことの報告がなされた。

質問：岸園賞の旅費補助は団体でも個人でも1件とみなすか？賞状は団体の場合、各位に準備するのか？

回答：旅費補助は1件、賞状は各位へ準備する。

議題4. 各部会行事報告と計画

○機友会：福原庶務幹事、錦水会：瀧田庶務幹事、A O I 会：曾我庶務幹事、南窓舎密会：満塩庶務幹事、しらなみ会：萩会長より報告がなされた。

○いずれも承認された

議題5. その他

○鹿児島大学同窓会連合会関東支部総会の開催年である。案内があれば宮城会長が出席する予定

○同窓会名簿で変更がある部会は事務局へ連絡を請う

令和4年度 会計報告

会計幹事 吉留 俊史 (応化S60年卒)

令和4年度の同窓会本部の一般会計、岩崎基金、岸園基金について、別表に従って収支決算を報告させていただきます。

一般会計の主な収入は前年度繰越金(8,047,787円)と学部の新入生・編入学生等が納入する同窓会終身会費(20,000円/人×381人=7,620,000円)です。これらの収入に会報広告代、預貯金利子等を加えて、歳入の合計金額は15,707,089円となりました。ただし会報広告代収入は令和4年度はありませんでした。主な支出としては、各部会への終身会費の支払い(3,130,000円)、本部運営関連経費(1,416,849円)、会報南桜風20号発行費(2,922,643円)、令和4年度学部卒業生に配布した同窓会追録名簿16号第4版の発行費(548,400円)、役員会・評議会等運営費(8,371円)、鹿児島大学同窓会連合会への分担金(100,000円)、同窓会本部室の借り受け料(63,800円)、工学部事務助成費(130,000円)、学生諸活動助成費(90,000円)がありました。なお、新型コロナウイルス感染防止のため本部役員出張費、大分県支部総会補助費の支出はありませんでした。また、同窓会評議会・総会の開催年ではないため関連の支出はありませんでした。その他の支出として、慶弔費(88,223円)がありました。歳出の合計金額は8,498,286円でした。歳入から歳出を差し引いた7,208,803円を次年度へ繰り越すことになりました。ただし、これには平成30年度から積立を開始した周年事業準備金の合計1,100,000円(令和4年度積み立て分220,000円)が含まれます。

岩崎基金について、歳入は前年度繰越金と預金利息の合計12,388,745円で、支出はありませんでした。12,388,745円を次年度へ繰り越すことになりました。

岸園基金について、歳入は前年度繰越金と利息の合計22,599,536円で、支出として岸園賞賞金(50,000円)、諸活動支援費(455,000円)がありました。なお、新型コロナウイルス感染防止のため司(つかさ)会は開催されなかったため、関連する費用

HONBU DAYORI

(開催経費、前年度岸園賞受賞者旅費)の支出はありませんでした。22,094,536円を次年度へ繰り越すことになりました。

令和5年度 鹿児島大学同窓会連合会総会・懇親会報告

日時：令和5年4月8日(土)
16:00～20:30

会場：マリnpalesかごしま3F
マリンホール

出席者：総会53名。うち工学部同窓会関係者5名
懇親会99名。うち工学部同窓会関係者10名

議題1. 令和4年度事業報告(案)

議題2. 令和4年度収支決算(案)及び
令和4年度会計監査報告

議題3. 令和5年度事業計画(案)

議題4. 令和5年度収支予算(案)

議題5. 役員改選について

議題1～5 審議の結果、原案どおり承認された。

その他 オンライン入学手続きに伴う各学部同窓会費納入案内方法等について今後の集約、協議について発言がなされた。



鷹野庶務幹事より工学部参加者の紹介



木方十根工学部長



参加者の皆様



会場の様子

令和4年度一般会計決算

(令和4年4月1日～令和5年3月31日)

歳入総額	15,707,089
歳出総額	8,498,286
差引残高	7,208,803

管理状況	金額	備考
通帳①: 郵貯通常貯金	996,558	
通帳②: 郵貯定額貯金	6,101,726	
定額貯金	5,001,726	H30年度より新入生からの会費5%程度を通常貯金から定額貯金へ振替え
定額貯金 周年事業準備基金	1,100,000	周年事業準備基金に充てる
現金	110,519	
合計	7,208,803	

(歳入)

単位:円

項目	R4予算額	R4決算額	差額注(2)	R4決算の備考
前年度繰越金	8,047,787	8,047,787		(注1)
本年度入学者納付金	8,780,000	6,920,000	-1,860,000	346名×2万
本年度外国人入学者納付金	20,000	40,000	20,000	2名×2万
本年度編入学者納付金	300,000	300,000	0	15名×2万
本年度博士課程入学者納付金	0	0	0	
以前の入学者納付金	40,000	340,000	300,000	17名×2万
以前の編入・外国人・博士納付金	0	20,000	20,000	1名×2万
小計	17,187,787	15,667,787	-1,520,000	
会報20号広告代	20,000	0	-20,000	
預貯金利子	500	502	2	郵貯普通31円、定期貯金471円
雑収入	0	38,800	38,800	祝金戻し、PCのキャッシュバック
合計	17,208,287	15,707,089	-1,501,198	

(注1) R4予算額の前年度繰越金8,047,787円=(R3歳入額)16,749,717円-(R3歳出額)8,701,930円

(歳出)

単位:円

項目	R4予算額	R4決算額	差額注(2)	R4決算の備考
(各部会割当金) (注3)				
機友会	980,000	900,000	-80,000	86/88 編4、前1
錦水会	1,610,000	940,000	-670,000	114/157 編5、前9
しらなみ会	550,000	340,000	-210,000	40/49 編1、外1、前博1
南窓舎密会	870,000	510,000	-360,000	62/89 編3、外1、前6
AOI会	580,000	360,000	-220,000	44/56 編2、前1
未納学生の退学・除籍の部会への返金	80,000	80,000	0	機0、錦3、AOI 2、南1、しらなみ2
小計	4,670,000	3,130,000	-1,540,000	
(本部運営関連)				
会長経費	40,000	40,000	0	
庶務経費	40,000	40,000	0	
会計経費	40,000	40,000	0	
編集経費	40,000	40,000	0	
事務員給与	1,030,000	993,741	-36,259	
通信費	60,000	70,571	10,571	振込手数料(5,126円)を含む
事務費	200,000	47,886	-152,114	文具他
		144,651		パソコン代
小計	1,450,000	1,416,849	-33,151	
同窓会評議会・総会				
旅費補助				
書面会議における通信切手代				
小計				
会報「南桜風」20号発行費	3,100,000	2,922,643	-177,357	製本、郵送代、不明者調査
追録名簿(16号第4版)発行費	600,000	548,400	-51,600	R4年度卒業生、院入学からの修了生
役員会・評議会等運営費	20,000	8,371	-11,629	連合会懇親会は中止
鹿児島大学同窓会連合会分担金	100,000	100,000	0	R4年度分
本部役員出張旅費	210,000	0	-210,000	新型コロナウイルス感染対策のため総会等実施なし
大分県支部総会補助金	0	0	0	R4年度は中止
不動産借り受け料	63,800	63,800	0	R4年度分
工学部事務助成費	130,000	130,000	0	助成費
学生諸活動助成費	225,000	90,000	-135,000	各PG(学科)諸活動
小計	4,448,800	3,863,214	-585,586	
慶弔費	100,000	88,223	-11,777	故山元和哉先生葬儀、稲盛氏顕彰広告 岩崎育英文化財団祝賀会祝金
予備費	6,539,487	0	-6,539,487	
小計	6,639,487	88,223	-6,551,264	
合計	17,208,287	8,498,286	-8,710,001	

(注2) 差額はR4決算額-R4予算額(単位円)

(注3) 令和2年度より一括棒導入に伴い、部会の予算額は工学部目安の定員を参考とする。

令和4年度の歳入決算額15,707,089円-令和4年度の歳出決算額8,498,286円=7,208,803円を令和5年度へ繰り越す。

令和4年度 周年事業準備基金 (令和4年4月1日～令和5年3月31日)

(積金)

項目	R4予算額	R4決算額
前年度までの積立金	660,000	880,000
郵貯普通貯金から郵貯定期貯金へ	220,000	220,000
合計	880,000	1,100,000

(注)平成29年拡大幹事会にて周年事業準備基金が承認され、翌平成30年度から本部割当金の5%程度を積み立てることとなる。

令和4年度 岩崎基金決算

(令和4年4月1日～令和5年3月31日)

通帳③ みずほ普通預金	12,388,745
合計	12,388,745

(歳入)

項目	R4予算額	R4決算額
前年度繰越金	12,388,647	12,388,647
みずほ普通預金利息	100	98
合計	12,388,747	12,388,745

(歳出)

項目	R4予算額	R4決算額	備考
工学部助成	0	0	
合計	0	0	

令和4年度の歳入決算額12,388,745円-令和4年度の歳出決算額0円=12,388,745円を令和5年度へ繰り越す。

令和4年度岸園基金決算

(令和4年4月1日～令和5年3月31日)

通帳④ 鹿銀普通預金	2,080,299
通帳⑤ 鹿銀定期預金	20,014,237
合計	22,094,536

(歳入)

項目	R4予算額	R4決算額
前年度繰越金	22,599,176	22,599,176
鹿銀普通預金利息	25	21
鹿銀定期預金利息	1,500	339
合計	22,600,701	22,599,536

(歳出)

項目	R4予算額	R4決算額	備考
岸園賞	250,000	50,000	機友会:熊澤典良氏
司(つかさ)会 補助金	100,000	0	
司(つかさ)会 岸園賞受賞者 旅費補助	0	0	
諸活動支援金	700,000	455,000	AOI会、錦水会、南窓舎密会、機友会、工学部
合計	1,050,000	505,000	

令和4年度の歳入決算額22,599,536円-令和4年度の歳出決算額505,000円=22,094,536円を令和5年度へ繰り越す。


会計監査報告書

鹿児島大学工学部同窓会御中

令和4年度(令和4年4月1日から令和5年3月31日)の会計監査を実施したところ、帳簿、領収書などがよく整理され、一般会計ならびに岩崎基金、岸園基金は適正に処理されていたことをご報告いたします。

令和5年5月31日

工学部同窓会監事

濱田 龍叔 

工学部同窓会監事

室井 徳寛 

つかさかい 司会の報告

新型コロナウイルス感染予防のため長らく休会していた司会を今年度4年ぶりに36名にお集まりいただき稲盛記念館2Fのヴェジマルシェ'19にて開催しました。今回は令和2年度「岸園賞」受賞者鹿大北辰会の代表である太田芳明様のご講話を予定しておりましたが、ご欠席となったため機友会：福原稔庶務幹事が資料を代読する形でご功績の紹介がなされました。その後、南窓舎密会：下茂徹朗会長の乾杯のご発声に続き歓談の時間となり、和やかな雰囲気の中、会話も弾み親睦を深める会となりました。最後は同窓会顧問：木方十根工学部長、理工学研究科長：山口明伸先生からもご挨拶をいただき、会の締めとなりました。



宮城泰児会長のご挨拶



機友会：福原稔庶務幹事
岸園賞受賞者：太田芳明様のご功績紹介



南窓舎密会：下茂徹朗会長



乾杯



歓談



山口明伸 理工学研究科長



同窓会顧問：木方十根工学部長



鷹野敦本部庶務幹事による司会進行



集合写真（於：稲盛記念館）

工学部同窓会大分県支部総会



第40回 鹿児島大学工学部同窓会大分県支部総会 令和5年6月10日 於：大分センチュリーホテル

第40回 鹿児島大学工学部同窓会大分県支部総会が6月10日（土）大分センチュリーホテルにて4年ぶりに開催されました。久しぶりの再会に参加者も笑顔となり、また初めての参加者も加わるなど、旧交を深める会となりました。

なお、この会は工学部のみならず他学部卒業生も参加できる会になっており、多くの参加者を募っています。また、今回の様子は大分合同新聞に掲載（令和5年9月23日）されたと法文卒：南公憲様よりお知らせいただきました。

鹿大「進取の精神」支援基金

令和5年度報告

大学が提唱し設立した『鹿大「進取の精神」支援基金』への寄附金は、グローバルな視点を有する地域人材育成のため、学生の海外派遣や留学生受入支援、若手研究者の育成、学生支援を進める目的で使用されています。工学部同窓会を含む各学部同窓会からも寄附を受けており、工学部同窓会は平成29年に300万円を拠金しています。

—令和5年度事業計画—

■学生海外派遣事業 2,258万円

(内訳)

- A. 長期派遣留学（1学期～1年）：550万円（22名）
- B. 中期海外研修（31日～90日）：770万円（45名）
- C. 短期海外研修（30日以内）：850万円（140名）
- D. 語学力強化プログラム：88万円

■留学生受入推進事業 1,242万円

(内訳)

- A. 地域交流推進プログラム：159万円（3名）
- B. 双方向交流推進プログラム（受入）：216万円（21名）
- C. 事業運営費：867万円

■若手研究者支援事業 750万円

- 1. 若手研究者による研究支援事業：750万円

■学生支援事業 750万円

- 1. 地域貢献人材育成事業 750万

■管理経費 100万

本事業による海外派遣・留学生受入支援者数 計231名

・派遣207名、受入24名

工学部同窓会諸活動支援報告

令和4年度

部 署：工学部

企 画：鹿児島大学工学部教員交流事業（教員送別会）

活 動 日：令和5年3月15日（水）

活動場所：鹿児島大学稲盛記念館2F（ヴェジマルシェ '19）（28名）

企画内容：工学部教員の交流事業の一環として、教員送別会を開催する。退職予定教員をお招きし、長年にわたる教育・研究のご功績、経験談や創意工夫などについてお話しいただく。懇親会を通して、退職予定教員の労をねぎらうとともに、学科やプログラムの垣根を超えた教員全体の交流を図り、工学部の活性化に資することを目的とする。

成果報告：工学部教員の交流事業の一環として、教員送別会を開催した。この数年間、コロナ禍の影響により、工学部教員送別会の開催が中止されていたが、今年度は退職予定者の山城徹教授と鯨坂徹教授をお招きして、無事に開催することができた。

当日は、退職予定教員はじめ、理工学研究科長、工学部長、副工学部長、工学部同窓会会長、および各PGの教員を含め、計28名の参加者があった。山城徹教授と鯨坂徹教授からは、長年にわたる教育・研究のご功績、経験談、創意工夫や思い出などについて貴重なお話をいただいた。また、懇親会を通して、退職予定者教員の労をねぎらうとともに、学科やプログラムの垣根を越えて工学部関係者の交流を図る貴重な機会となった。

そ が かずひろ
(曾我 和弘 教授)



令和5年度

部 署：錦水会

企 画：学生向け講演会「きばっど会」

活 動 日：令和5年10月21日（土）

活動場所：建築学科01教室（120名）

企画内容：主に学部3年生と修士1年生を対象とした、卒業生による講演会である。講師として卒業生2名に依頼し、就職や進学を控えた学生に対して、社会人としての心構え、学生時代に取り組んでおくべき事項、社会に出てからの経験についての話をしてもらう。他学年や他学科の学生の聴講も可である。

成果報告：講師として卒業生2名を招き、就職活動を控えた学部3年生および修士1年生を主な対象として、学生向け講演会「きばっど会」を開催した。講師として昭和59年電子工学科卒業で錦水会関西支部長の白石司氏、平成17年の情報工学科卒業で現在は株式会社ミラプレの代表取締役の大迫政徳氏の2名を招き、白石氏からは主にパナソニックの経験に基づいた実践的な講演をいただき、大迫氏からはゲーム開発に携わる仕事等の学生の興味を引くお話をしていただき、いずれも学生にとって大変有意義で実り多いものとなった。講演会終了後は懇親会も開催され、学生には補助を出して招待し、講師と学生および卒業生との間の懇親を深めることができた。

ふちだ たかやす
(田 孝康 教授)



白石 司氏



大迫正徳氏



部 署：しらなみ会

企 画：第2回 卒業生による講演会

活 動 日：令和5年10月25日（水）

活動場所：講演会 稲盛会館 交流会 海洋土木工学棟2階AL室（130名）

企画内容：学部生および大学院生を対象に、卒業生による講演会および学生との交流会を実施する。顕著な活躍をしている卒業生に社会に出てからの様々な実体験を語ってもらうことにより、卒業生の活躍を知ってもらい学生の励みにしてもらうとともに、進路選択への視野を深めることを目的とする。

成果報告：工学部先進工学科海洋土木工学プログラムの学生101名、鹿児島大学理工学研究科 工学専攻海洋土木工学プログラムの学生17名、OB 12名が参加し、卒業生による講演会が開催されました。第1期生の岩田充弘氏を講師に迎え、題目「土木の世界はどこへ行く」について講演をいただきました。その後、OBと学生との交流会を開催し会話をすることで先輩後輩の絆を深めることができました。参加した学生から「とてもよかった」との感想が多く、今後の学生生活の過ごし方や就職に向けて、とてもよい講演会になりました。

あきら よしかず
(審良 善和 准教授)



部 署：機友会

企 画：学生と若手技術者との交流会

活 動 日：令和5年12月13日（水）

活動場所：鹿児島大学工学部 稲盛会館（85名）

企画内容：学部先進工学科機械工学プログラムの3年生を中心にして鹿児島大学理工学研究科工学専攻機械工学プログラム1年生、鹿児島高専機械工学科生、第一工大機械システム工学科学学生を対象として、特別講演1件、同機械工学科出身のOBの技術者5名によるパネルディスカッションを行い、学生と技術者との交流を通じて、今後のキャリア設計を支援する。

成果報告：工学部先進工学科機械工学プログラムの3年生67名、鹿児島大学理工学研究科工学専攻機械工学プログラムの1年生6名、鹿児島大学教員3名、講師1名、大学OBのパネリスト5名、その他企業関係者3名の計85名が参加した。特別講演1件と機械工学科出身OBの技術者5名によるパネルディスカッションを実施

した。パネルディスカッションではパネリストからの仕事内容などのプレゼンテーションの後、質疑応答を行った。

まつぎき けんいちろう
(松崎 健一郎 教授)



部 署：AOI会

企 画：AOI会 建築ナビ「先輩と進路・就職を語る会」

活 動 日：令和5年12月16日（土）

活動場所：鹿児島大学工学部 稲盛会館

企画内容：第一線で活躍されている卒業生による講演会。社会的経験、人生観等後輩へ伝えたい事を講演していただくとともに、在学生と先輩との情報交換を目的とする。

成果報告：講師として3名の卒業生を招き、学部生および大学院生を対象として講演会を開催した。本年度で21回目を迎える。講師として須山菜穂子氏、池田さとみ氏、三木健治氏の3名を招き、それぞれ従事されている実践的な内容をご講演頂いた。講演会後は、AOI会副会長渡島氏がモデレーターを務め、鹿児島在住の卒業生2名(藤井英俊氏 益田亜季氏)も参加し座談会が開催された。座談会では、普段ではし難い内容に言及する学生質問もあり、先輩、後輩であるがゆえの交流の場となり、大変有意義で爽り多い講演会となった。

ますどめ まきこ
(増留 麻紀子 助教)



工学部同窓会学生諸活動助成報告

各PGの学生会員が企画する催しおよび工学部体育祭を助成しています。

令和4年度

プログラム：建築学プログラム

企画：卒業設計座談会

活動日：令和5年2月11日（木）

活動場所：建築学科棟2号館2階B-studio（110名）

事業報告：建築学プログラム全学年参加で行われた卒業設計講評会の後に、座談会を開催しました。当日は、日本を代表する建築家である西沢立衛先生をお招きし、4年生が制作した卒業設計作品の講評や講演会、学生とのフリートークをしていただきました。

同窓会からの助成金を使って飲み物とお菓子を準備したことで、西沢先生、学生、学科教員ともにリラックスした雰囲気の中で本音の建築トークができ、貴重な学びの機会となりました。

（理工学研究科工学専攻 建築学プログラム 博士前期課程1年 やなぎた りくと 柳田 陸斗）



左 西沢立衛先生

令和5年度

プログラム：海洋土木工学プログラム

企画：①研究室配属・進学・就職相談会 ②海土女子会

活動日：海土女子会 令和5年7月19日（水）

研究室配属・進学・就職相談会 令和5年10月18日（水）

活動場所：海洋土木棟2F AL室（90名）

事業報告：研究室配属・進学・就職相談会—仮配属を迎える3年生に向けて、各研究室の紹介や進路相談（就職・大学院進学）などの相談会を開催しました。参加してくれた3年生は、興味のある研究室に所属する先輩に研究内容や進路に関する相談ができたことで非常に満足していました。学生同士がふれあえる貴重な時間にもなりました。

女子会—女子会では授業や進路に関する相談や質問などで様々な話がありました。女子学生同士の繋がりを深める有意義な機会となりました。

（理工学研究科工学専攻 海洋土木工学プログラム 博士前期課程1年 いわたが れんたろう 岩永 蓮太郎）



女子会①



女子会②



研究室配置・進学・就職相談会①



研究室配置・進学・就職相談会②

プログラム：化学生命工学プログラム

企画：化工・化生ソフトボール大会

活動日：令和5年7月22日（土）

活動場所：鹿児島大学郡元キャンパス教育学部グラウンド（94名）

事業報告：前日までは、天候不順で気温が高く、ソフトボール大会ができるか不安がありました。しかし当日は雨も降らず、過ごしやすい気温で、無事にソフトボール大会を開催することができました。合計7チームが参加し、予選リーグを行った後、決勝リーグと下位リーグに分かれて試合を行いました。試合は大きな怪我や病気もなく、多くの参加者から「とても楽しかった」と声もいただき、大成功に収めることができましたと思います。助成金は、1～4位までの賞品、参加賞（参加者全員に緑茶、塩分チャージ、アイスクリーム）、運営費に使わせていただきました。ありがとうございました。

（先進工学科化学工学プログラム 4年 ^{たかいわ}高岩 ^{たいが}大雅）





プログラム：化学生命工学プログラム

企 画：化工・化生ソフトボール大会

活 動 日：令和5年12月3日（日）

活動場所：鹿児島大学郡元キャンパス教育学部グラウンド（72名）

事業報告：大会当日の天気は快晴で、寒さも特に気にならず無事にソフトボール大会を開催することができました。化生・化工から計6チームが参加し、先生方が参加するチームもあり、大変盛り上がる大会になりました。予選リーグを行った後、上位リーグ、下位リーグに分かれ試合を行いました。予選リーグで勝ったチームも負けたチームも最後まで楽しめる大会になりました。

（先進工学科化学生命工学プログラム
4年 おだ いぶき 小田 伊吹）



プログラム：電気電子工学プログラム

企 画：第51回電気電子工学プログラム バドミントン大会

活 動 日：令和5年12月3日（日）

活動場所：教育学部 第1体育館（18名）

事業報告：新型コロナウイルスの影響により、学生同士や先生方とのコミュニケーションの場も少なくなっている中、本大会は、3年ぶりの開催となりました。試合では、白熱した戦いが繰り広げられ、参加者同士の良い交流の場になりました。助成金により、参加者の負担もなく開催できました。

（理工学研究科工学専攻 電気電子工学プログラム 博士前期課程1年 こばやし あやのり 小林 史憲）



プログラム：建築学プログラム

企 画：建築学科の1年生と教員・学生相談員の懇親会

活 動 日：令和5年12月11日（月）

活動場所：学習交流プラザ1階（87名）

事業報告：建築学科の1年生と教員・大学院生の懇親会を学習交流プラザで開催した。10数名ずつ7つのテーブルにわかれてお互いの自己紹介をしたあとに、入学の動機や建築に関心を持ったきっかけなどについて語り合った。入学してみたの感想としては、設計演習の模型制作など大変なこともあるが、おおむね学生生活を楽しんでいる様子だった。

コロナ禍のため4年ぶりの開催という事もあり、対面で話せることの意義を確認する機会となった。

（理工学研究科工学専攻 建築学プログラム 博士前期課程1年 うえはら たいよう
上原 太陽）



鹿児島大学工学部同窓会会則

(名称)

第1条 本会は鹿児島大学工学部同窓会と称する。

(目的)

第2条 本会は会員相互の親睦と母校の発展をはかり、主として科学技術を通じて社会に貢献することを目的とする。

(事業)

第3条 本会はその目的を達成するため、次の事業を行う。

- 1、会員名簿の発行
- 2、会報の発行
- 3、工学部助成
- 4、その他、本会の目的を達成するために必要な事業

(組織)

第4条 本会は次の会員で組織する。

- 1、正会員：鹿児島県立工業専門学校、鹿児島県立大学工学部および鹿児島大学工学部卒業生および在学生、ならびに同専攻科および同大学院工学研究科および理工学研究科（工学系）修了生および在学生
- 2、特別会員：鹿児島大学工学部教官・教員、ならびに鹿児島県立工業専門学校、鹿児島県立大学工学部および鹿児島大学工学部の教官・教員であったもの、その他評議会で承認されたもの
- 3、名誉会員：総会の決議により推薦されたもの
- 4、榮譽会員：本会に対して特別の貢献のあった正会員で、総会の決議により推薦されたもの

第5条 本会は本部を鹿児島大学工学部内におく。

第6条 本会に学科別会員をもって組織された各部会をおく。部会の組織については細則にこれを定める。

(役員)

第7条 本会には次の役員をおく。

本部役員として会長1名、副会長5名、顧問1名、評議員 各部会毎に10名以内、幹事3名、監事2名をおく。評議会が必要と認めた場合、名誉役員として名誉顧問を若干名おくことができる。

第8条 本部役員および名誉役員の任期は3年とする。ただし会長は2期までとし、その他の役員は再任をさまたげない。

第9条 顧問は工学部長とし、評議員は各部会より推薦する。会長、副会長、幹事、監事は評議会において選出する。名誉顧問は評議会において推薦する。

(運営)

第10条 会長は本会を代表し会務を総理し、評議会の議長となりその決議を執行する。副会長は会長を補佐し、会長に事故ある時はこれを代行する。本部役員は評議会を構成し会務を審議する。幹事は会務を処理する。監事は会務全般の監査を行う。名誉顧問は評議会の諮問に応じ、会務の執行に対して意見を述べることができる。

第11条 会長は3年毎に総会を開き会務を報告する。ただし収支決算は毎年各部に報告する。

(会計)

第12条 会員は終身会費を納付しなければならない。ただし、特別会員および名誉会員はこの限りではない。

第13条 本会の運営に必要な経費は終身会費および雑収入をもってこれに充てる。

第14条 本会の会計年度は毎年4月1日に始まり翌年3月31日に終わる。

(会則変更)

第15条 本会の会則の変更は評議員総数の2/3以上の賛成を得た議案に対し、総会に諮ってこれを改正する。

(附則)

本会則は平成18年3月18日より施行する。

細則

(事業)

第1条 会員名簿の発行は5年ごととし、会報は原則として年1回発行する。会報は、卒業生に関しては会費納入者のみに配布する。

(役員)

第2条 幹事は庶務、会計および編集等を分担する。

(部会)

第3条 部会は会員の希望により2学科以上をもって部会を組織することもできる。

第4条 部会は本会則の趣旨に沿ってそれぞれの会則を定めて運営し、その状況を適宜会長に報告する。

第5条 部会は必要に応じて各地区に部会支部をおく。ただし、支部会員の希望により部会支部は合同して同窓会支部を組織することができる。

(会計)

第6条 終身会費は入学時に20,000円とする。

第7条 会費の一部は入学定員により各部に按分され、部会独自の事業を行う。

昭和29年3月1日制定 (鹿児島工学会)

昭和33年3月5日改正 (鹿児島大学工学部同窓会規約)

昭和41年8月28日改正 (鹿児島大学工学部同窓会会則)

昭和48年9月1日改正

平成9年2月21日改正

平成18年3月18日改正

平成27年3月7日改正

平成29年8月18日改正

平成30年8月17日改正

令和2年8月28日改正

編集後記

本部編集幹事・福原 稔

ここに工学部同窓会会報「南桜風」第21号をお届けいたします。

令和3年度より3年間、同窓会本部の編集幹事を担当させていただいており、会報「南桜風」の発行を令和5年度（本誌）、関係各位のご支援により行うことができました。本誌では、各プログラムの状況、各部会の活動、工学部同窓会諸活動など、前号に比べて多岐にわたる内容を掲載しておりますので、是非ともご覧ください。原稿の執筆にご協力いただきました皆様へ感謝申し上げます。なお、過去の会報を高覧ご希望の方は、HP(<https://kadai-eng-dousou.sakura.ne.jp>)において創刊号から掲載しておりますのでご利用ください。

また、編集部会の重要な事業として名簿発行があります。同窓会名簿第16号は令和2年3月に発行され、毎年追録版を作成しています。第17号（令和7年3月発行予定）に向け、会員の皆様の判明率の向上を目指して、住所不明者の情報や住所変更など、同窓会本部へご連絡くださいますようお願い申し上げます。

機友会編集副幹事・池田 徹

本年度から編集副幹事を務めさせていただいております。慣れない仕事で、不手際が多かったにもかかわらず、皆様にご協力いただき無事入稿することができました。この場を借りて御礼申し上げます。

新型コロナウイルス感染症のために、種々の行事が中止に追い込まれておりましたが、今年3月には、工学部同窓会総会が、来年度には、機友会総会の開催が予定されています。ホームページ (<http://www.mech.kagoshima-u.ac.jp/~kiyukai/index.htm>) にて情報発信しておりますので、ご確認いただけますと幸いです。

錦水会編集幹事・鹿嶋 雅之

会報作成にあたり、本部及び各支部の皆様には、お忙しい中ご寄稿いただき、誠にありがとうございます。ようやくコロナ禍も一段落し、今年度から各支部でも対面での総会が開かれるようになり、支部総会への教員の派遣も再開されました。今後も卒業生の皆様と共に、錦水会を盛り上げて参りたいと思っています。

AOI会編集幹事・増留 麻紀子

快くご執筆頂きました各支部の皆様へ、心よりお礼申し上げます。ここ数年はコロナ禍により全ての支部で総会の開催を中止されていましたが、本年度全ての支部で再開され数年ぶりにとても賑やかな活動報告となりました。また、武田会長の退任、執行部の一新、109名が参加した関東AOI会「大」同窓会の開催など、今年度はとても感慨深い編集作業となりました。ご協力下さいました多くの皆様に重ねてお礼を申し上げます。

南窓舎密会編集幹事・橋口 周平

編集幹事を担当して3年、今年度もなんとか発行に間に合わせることができました。

ご協力いただいた本部、支部の皆様へ感謝申し上げます。能登半島地震で被災された方々に心からのお見舞いを申し上げます。

しらなみ会編集幹事・酒匂 一成

本年度から久しぶりにしらなみ会の編集幹事を担当することになりましたが、あまりにも久しぶりすぎて、会報の編集作業内容をだいぶ忘れていました。ご対応いただきましたしらなみ会の萩会長を始め、木佐貫庶務幹事、各支部長の皆様、誠にありがとうございます。来年度こそは、スムーズに編集作業ができるようにしたいです。また、しらなみ会HPにおいて、しらなみ会行事案内を随時ご案内いたしますので、ご覧いただければ幸いです。

同窓会名簿第17号について

工学部同窓会では同窓会名簿第17号を令和7年（2025年）3月に発行予定です。

発行に向けての作業を令和6年度（2024年度）より始め、まずは令和6年4月以降に会員の皆様へ氏名、住所等の確認ハガキを送付いたしますので、内容をご確認ください。

また、現在56.2%の判明率を高めるように情報の収集を行いたいと考えております。同期の方などの情報をご存知でしたら是非ご協力ください。なお、ご提供いただいた情報は個人情報保護法を順守し、ご本人へ確認をとったうえで編集作業を行います。

会員の皆様方にはご理解を賜りたく、さらに同窓会名簿第17号の作成につきましては従来に増してのご協力をいただきますようお願い申し上げます。

【お知らせ】

名簿作成は3年毎となっておりますが、名簿代金の高騰が避けられないことなどを鑑み、5年毎の作成とすることが2018年拡大幹事会で決定しました。

作成にあたっては、**名簿業者(株)サラト**に委託します。

(株)サラト

所在地 〒670-0948 兵庫県姫路市北条宮の町172
設立 昭和48年9月1日
代表者 代表取締役社長 福田裕一
従業員 182名（令和4年4月現在）
事業内容 同窓会・各種団体の会員情報管理
同窓会名簿の調査、編集、発行
会報・会誌の編集印刷、各種郵便物の発送代行
オリジナル制服リカちゃん制作、各種記念品作成
HPの企画制作、運営管理代行
同期会・クラス会・OB会開催の幹事代行
TEL 079-284-1380（代表）
FAX 079-224-7746
E-Mail eigyo@salat.co.jp

鹿児島大学工学部同窓会における個人情報に関する基本方針

プライバシーポリシー

新たに皆様から頂く個人情報及び従来から本会で保有しております個人情報につきましては、個人情報保護法に従い下記のように取り扱います。

1. 個人情報の収集・利用目的

本会では以下の情報を収集いたします。

①名前、②自宅住所、③電話番号、④勤務先、⑤勤務先電話番号、⑥電子メール

2. 個人情報の利用目的

収集した情報は次に掲げる目的で利用いたします。

- (1) 卒業生データの作成・管理を目的とするもの
- (2) 総会等運営のために必要な文書等の送付を目的とするもの
- (3) 会報、名簿および各種お知らせ等の送付を目的とするもの
- (4) 大学への情報提供を目的とするもの

3. 委託先および第三者提供先

この文書に定める利用目的に関連して、機密保持契約を締結した委託先に会員等の個人情報を提供する場合は、適格性を十分に審査し、本会が求める個人情報保護体制を維持できるように管理・監督いたします。

4. 安全管理措置

本会は、この文書で定める事項に適用するように収集した個人情報を安全に取り扱い、不正アクセス、紛失、改ざんまたは遺漏が生じないよう適切な措置を講じます。

5. 個人情報の開示・訂正・利用の停止等の申し出先

本人が当該本人に関する個人情報の開示・訂正・追加・利用停止の請求ならびに個人情報の取り扱いに関する問い合わせを行う場合の連絡先は以下の通りです。

鹿児島大学工学部同窓会事務局

〒890-0065 鹿児島市郡元一丁目21-40

T E L 099-285-3494

F A X 099-285-3494

同窓会事務局開局日：月・水・金（10時～17時）



なんおうふう
会報「南桜風」を同窓会ホームページに掲載しています

工学部同窓会では会報「南桜風」を発行し、大学の近況や学科の様子、各部会の活動状況、新卒者の就職・進路先などを紹介しております。また、創刊号からの会報をホームページ（HP）にも掲載し多くの会員の皆様へご覧いただけるようにしました。どうぞご覧ください。

工学部同窓会ホームページ <https://kadai-eng-dousou.sakura.ne.jp>

★会報は、住所が判明している会員の皆様へ無償で配布しております。

